

三重大学

学生総合支援センター

2020年度
報告書



目次

I 学生総合支援センター

・組織図	01
・学生総合支援センター会議 委員名簿	02
・学生委員会 委員名簿	02

II 学生生活支援室

・活動報告	03
・奨学生数	05
・学部・研究科別外国人留学生数	06
・国籍別外国人留学生数	07
・入学料免除者数	08
・授業料免除者数	09
・学生寄宿舎入寮許可状況	10
・学生保険の加入について	11
・クラブ・サークル一覧(体育系・文化系)	13

III 障がい学生支援室

・活動報告	15
・三重大学障がい学生支援セミナー2020 実施報告	17

IV 学生なんでも相談室

・活動報告	20
・学生なんでも相談室ニュース	23

V キャリア支援センター

・活動報告	25
・就職状況	30

VI SA(スチューデント・アシスタント)

・取り組みを振り返って	32
・キャリア・ピアサポーター資格取得ガイド	33

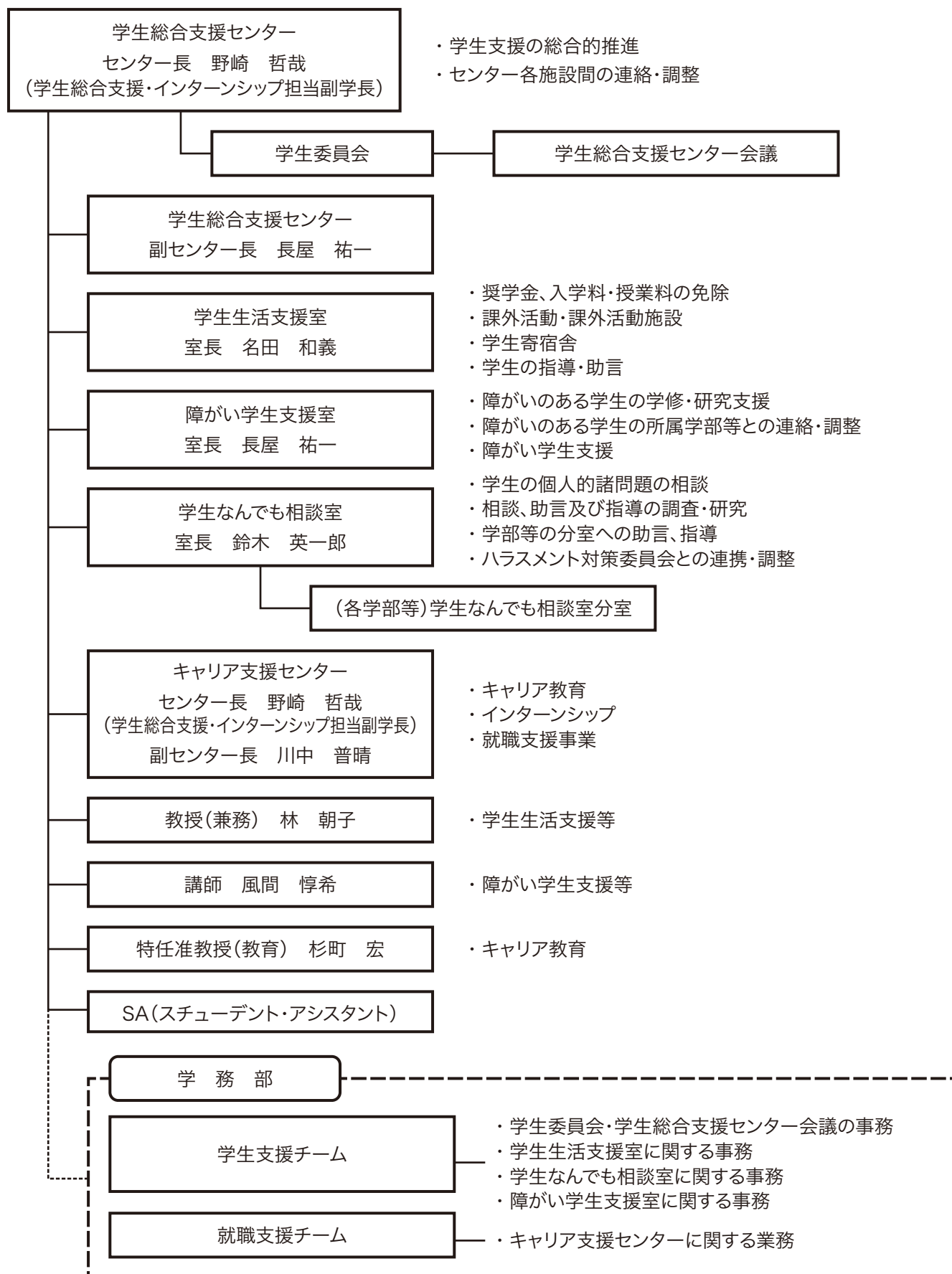
VII 学生総合支援センター主催行事

・学生支援サミット2020	34
---------------	----



学生総合支援センター

令和2年度 学生総合支援センター 組織図



令和2年度 学生総合支援センター会議 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援センター長	野崎 哲哉	議長 学生総合支援・インターンシップ担当 副学長
	キャリア支援センター長		
	学生総合支援センター副センター長	長屋 祐一	
	障がい学生支援室長		
	学生生活支援室長	名田 和義	
	学生なんでも相談室長	鈴木 英一郎	
	キャリア支援センター副センター長	川中 普晴	
	障がい学生支援室 講師	風間 惇希	
	学務部長	草川 弥生	
	教授	林 朝子	教育学部
	教授	堀 浩樹	医学部
陪席	学生支援課長	河村 俊男	
	学生支援チーム副課長	田中 正明	
	就職支援課長	富島 嘉夫	

令和2年度 学生委員会 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援センター長	野崎 哲哉	委員長 学生総合支援・インターンシップ担当 副学長
	キャリア支援センター長		
	学生総合支援センター副センター長	長屋 祐一	副委員長
	障がい学生支援室長		
	学生生活支援室長	名田 和義	
	学生なんでも相談室長	鈴木 英一郎	
	キャリア支援センター副センター長	川中 普晴	
	保健管理センター所長	富本 秀和	
	国際交流センター	松岡 知津子	
	人文学部	グットマン ティエリー ルシアソ ジェラルド	
	教育学部	中西 良文	
	医学部	片岡 三佳	
	工学研究科	鈴木 秀智	
	生物資源学研究科	取出 伸夫	
	学務部長	草川 弥生	
陪席	学生支援課長	河村 俊男	
	学生支援チーム副課長	田中 正明	
	就職支援課長	富島 嘉夫	

Ⅱ 学生生活支援室

令和2年度 活動報告

1 臨時給付型奨学金制度の実施

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により家計が急変し、修学の継続が困難であると認められる正規学生に対し、今後の修学を支援するため「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時給付型奨学金制度」の規程を制定し、支援を行った。支援内容は、対象学生1人あたり10万円の給付型奨学金の支給。5月及び8月に2回募集を行い、申請者数555名、採用者は410名(人数は延べ)であった。

2 「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』への対応

国が実施した「学生支援緊急給付金給付事業」について、本学でも学生からの申請受付を行い、選考の上、日本学生支援機構に対象者を推薦した。事業内容は、対象学生1人あたり10万円(住民税非課税世帯の学生は20万円)の給付金を支給。申請者は1,153名、推薦者は871名であった。

3 男子学生寄宿舎の在寮期間の規程改正

男子学生寄宿舎規程第7条第1項により在寮期間は、「入学した年度の4月1日から2年を経過する日までの期間を超えることができない。ただし、生活困窮度が高く、修学上特に支障を来す者については、この限りでない。」と規定されているため、3年目以降については原則退寮することとなっていた。しかし、実際は3年目以降も在寮を希望する学生が多いため、男子学生寄宿舎規程第7条第1項を「在寮期間は、入寮を許可された日からその者の最短修業年限終了の日を超えることができない。」に改正し、3年目以降も在寮できることとした。

4 課外活動団体における感染予防に係るガイドラインの作成

コロナ禍の中で課外活動団体として活動を行う場合のガイドラインを作成した。各活動団体がコロナ禍で活動する場合は、「新しい生活様式に基づく活動計画」および「新型コロナウイルス感染防止に係る検討結果報告書」を提出し、ガイドラインを遵守することとした。

5 クラブ・サークル活動関係

毎月クラブ・サークル連絡会を定例開催し、各種注意喚起、連絡を行った。また、新型コロナウイルス感染症への本学指針の変更にあわせて、臨時のクラブ・サークル連絡会を開催した。

2月17日にクラブ・サークルリーダー研修会を開催し、課外活動代表者の育成を図った。

地域貢献サークルMeikuが、全国農協観光協会主催の「第一回学生地域づくり・交流大賞」で大賞に次ぐ優秀賞に選ばれるなど、令和2年度中に輝かしい成績を取めたことが評価され、理事表彰を受けた。

6 課外活動施設の改善及び備品等購入助成

* 感染症対策	手指消毒用アルコール設置、除菌シート配布
* 第1体育館	紐引きカーテン修理、剣道場床部分修繕、バレーボール床金具蓋交換
* 第2体育館	紐引きカーテン修理、男子トイレ洋式化工事
* 屋内運動場	紐引きカーテン修理、壁面修繕工事
* 第2体育練習場	雨漏り修繕
* 陸上競技場	器具庫シャッター修理、走路表面補修

* テニスコート	人工芝部分修繕
* 弓道場	屋根及び安土小屋修理
* 翠陵会館	トイレ改修工事、トイレ換気扇取替
* 課外音楽棟	練習室換気扇修繕
* その他	ワンダーフォーゲル部部室屋根修繕、バレーボール支柱更新

7 未成年の飲酒防止、学生の飲酒事故防止に係る指導

新型コロナウイルス感染防止対策として、クラブ・サークルに飲食を伴う懇親会を行わないように指導するとともに、夏季と冬季の休業前に未成年者が飲酒を行わないように注意喚起した。また、2月17日にクラブ・サークルリーダー研修会を開催し、私立大学で発生した大学生の一気飲みによる飲酒死亡事故を事例紹介し、一气飲みや未成年の飲酒の危険性について啓発した。

8 上浜キャンパス自転車登録制の実施

学内外での自転車マナー向上を目指し、上浜キャンパスに乗り入れる学生の自転車に登録シールを貼付する自転車乗り入れ登録制を引き続き実施した。また、学内における自転車の登録状況の調査を実施した。調査の結果、R2年度3月末の自転車登録台総数は、4,518台であり、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う行動規範により前年度同時期頃と比較し1,859台減少した。

9 学生の活動支援

本学の学生へ依頼のあった学生の地方行政団体行事への参画などの活動やボランティア活動の支援を行った。また、課外活動を行っている学生に、ボランティア活動の状況調査を実施した。

奨学生数

令和3年3月現在

学部等			区分	在学生数	日本学生支援機構				地方公共団体 民間育英団体	入学特別 奨学金	合計	在学生に 対する 百分率
					給付	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	計				
学部	人文学部		1,157	98	186	102	386	2	0	388	33.5%	
	教育学部		836	80	140	100	320	6	0	326	39.0%	
	医学部		1,091	55	94	107	256	301	0	557	51.1%	
	工学部		1,764	146	257	230	633	13	0	646	36.6%	
	生物資源学部		1,112	96	152	115	363	6	0	369	33.2%	
大学院	人文社会科学研究科		35		2	2	4	0	0	4	11.4%	
	教育学研究科	修士	47		7	1	8	0	3	11	23.4%	
		専門	29		1	0	1	0	0	1	3.4%	
	医学系研究科	修士	18		3	0	3	0	0	3	16.7%	
		前期	26		1	1	2	0	0	2	7.7%	
		後期	17		0	0	0	0	0	0	0.0%	
		博士	198		3	1	4	0	0	4	2.0%	
	工学研究科	前期	434		168	4	172	3	4	179	41.2%	
		後期	43		4	1	5	0	0	5	11.6%	
	生物資源学 研究科	前期	146		45	2	47	1	3	51	34.9%	
		後期	37		3	0	3	0	0	3	8.1%	
	地域イノベーション学 研究科	前期	29		5	0	5	0	0	5	17.2%	
		後期	25		1	1	2	0	0	2	8.0%	
計			7,044	475	1,072	667	2,214	332	10	2,556	36.3%	

※在学生数は令和2年5月時点

令和2年度 外国人留学生数(学部・研究科等別)

令和2年11月1日現在

	学部		修士		博士		計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	
人文学部・人文社会科学研究科	15(4)	6(5)	14(6)	0(0)	0(0)	0(0)	35(15)
教育学部・教育学研究科	2(1)	1(1)	6(3)	0(0)	0(0)	0(0)	9(5)
医学部・医学系研究科	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	23(10)	0(0)	24(11)
工学部・工学研究科	18(2)	4(1)	10(3)	0(0)	14(6)	0(0)	46(12)
生物資源学部・生物資源学研究科	1(1)	4(2)	19(7)	0(0)	13(7)	1(0)	38(17)
地域イノベーション学研究科	0(0)	0(0)	5(3)	0(0)	2(1)	0(0)	7(4)
国際交流センター	0(0)	23(19)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	23(19)
計	36(8)	38(28)	55(23)	0(0)	52(24)	1(0)	182(83)

()は、内数で女子を示す。

令和2年度 国籍別外国人留学生数調

29ヶ国・地域 総数 182 (女子 83)

令和2年11月1日現在

地域・国名		【学 部】		【大 学 院】		【国際交流センター】	計
		正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生	
アジア	中 国	10(0)	12(9)	57(28)		19(17)	98(54)
	ベトナム	9(2)	1(0)	3(0)		1(1)	14(3)
	韓 国	13(6)					13(6)
	インドネシア		1(0)	8(3)		1(0)	10(3)
	マレーシア	3(0)		1(1)			4(1)
	バングラデシュ			4(2)			4(2)
	タイ			2(2)		1(1)	3(3)
	ミャンマー			3(0)			3(0)
	カンボジア	1(0)		1(0)		1(0)	3(0)
	フィリピン			2(2)			2(2)
	ラオス		1(0)	1(0)			2(0)
	ネパール			1(1)			1(1)
	スリランカ			1(0)			1(0)
	東ティモール			1(1)			1(1)
	台湾			1(0)			1(0)
アフリカ	ガーナ			6(2)			6(2)
	エジプト			2(2)			2(2)
	タンザニア			2(0)			2(0)
	ザンビア			2(0)			2(0)
	ケニア			1(0)			1(0)
	モザンビーク			1(0)			1(0)
	セيشェル			1(1)			1(1)
中南米	パラグアイ			1(1)			1(1)
	メキシコ			1(0)			1(0)
オセアニア	フィジー				1(0)		1(0)
	パプアニューギニア			1(1)			1(1)
	ソロモン諸島			1(0)			1(0)
	バヌアツ			1(0)			1(0)
	ツバル			1(0)			1(0)
計		36(8)	15(9)	107(47)	1(0)	23(19)	182(83)
		51(17)		108(47)		23(19)	

()は、内数で女子を示す。

正規生 143(55)

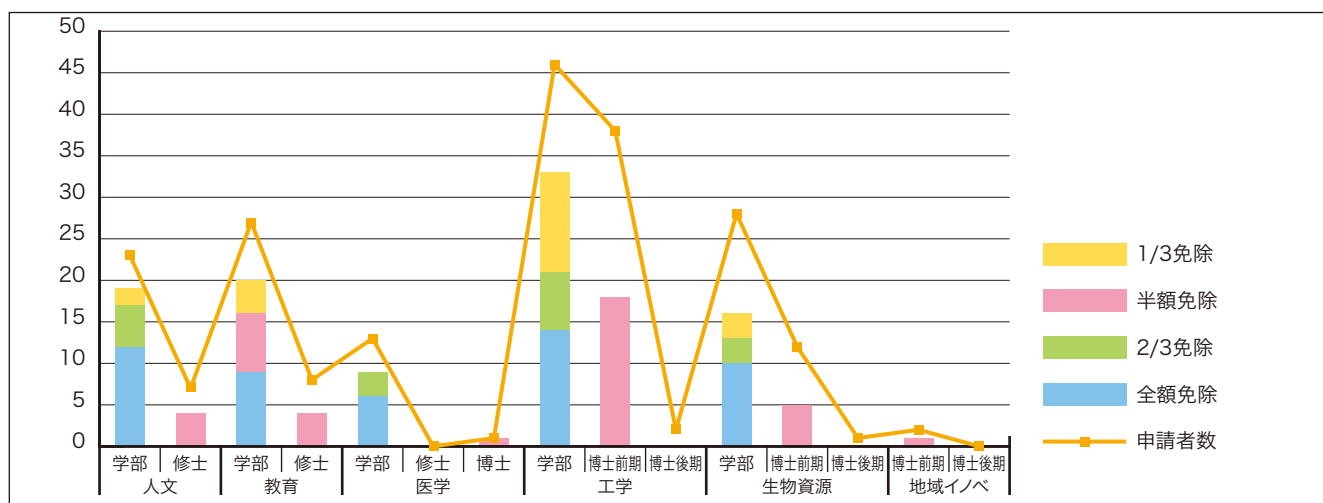
非正規生 39(28)

令和2年度 入学料免除者数(学部・研究科別)

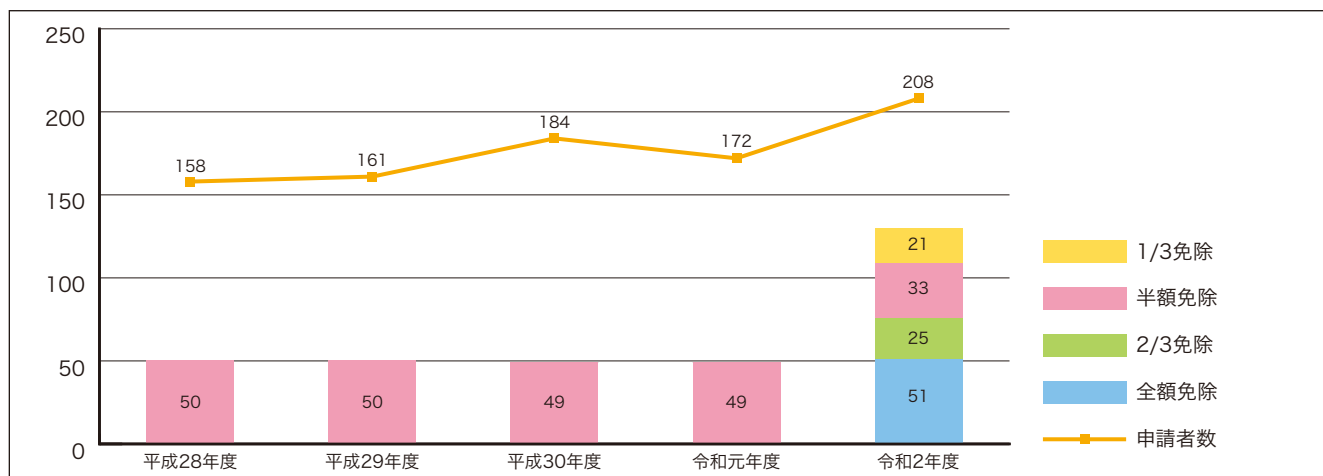
●入学料免除

学部・研究科名		申請者数	全額免除	2/3免除	半額免除	1/3免除
人文	学部	23	12	5	—	2
	修士	7	0	—	4	—
教育	学部	27	9	7	—	4
	修士	8	0	—	4	—
医学	学部	13	6	3	—	0
	修士	0	0	—	0	—
	博士	1	0	—	1	—
工学	学部	46	14	7	—	12
	博士前期	38	0	—	18	—
	博士後期	2	0	—	0	—
生物資源	学部	28	10	3	—	3
	博士前期	12	0	—	5	—
	博士後期	1	0	—	0	—
地域イノベ	博士前期	2	0	—	1	—
	博士後期	0	0	—	0	—
合 計		208	51	25	33	21

●令和2年度入学料免除者数



●過去5年間の三重大学における入学料免除者数(平成28年度～令和2年度)

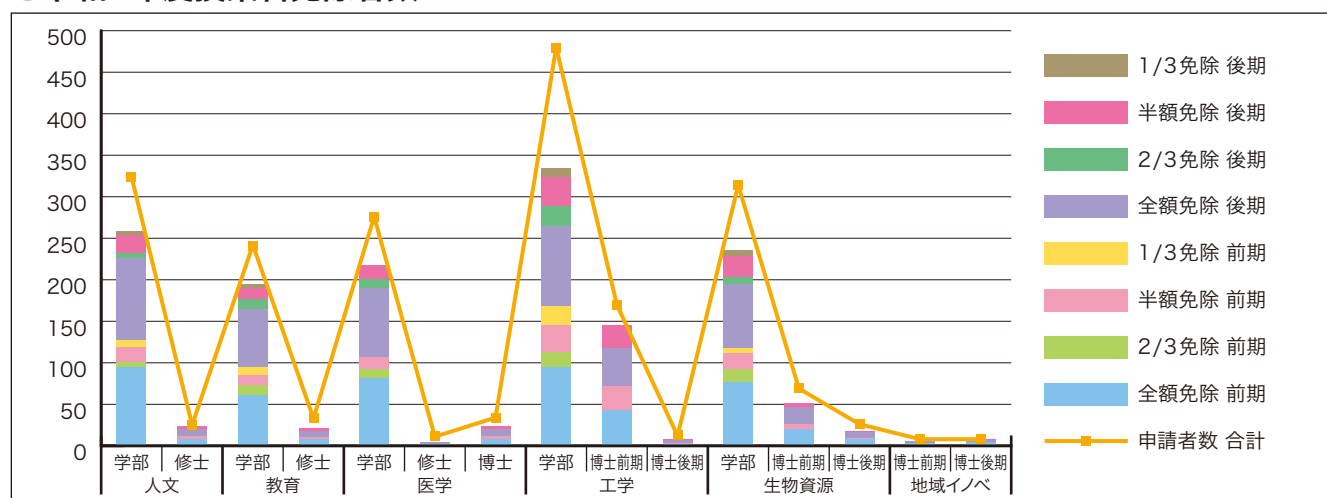


令和2年度 授業料免除者数(学部・研究科別)

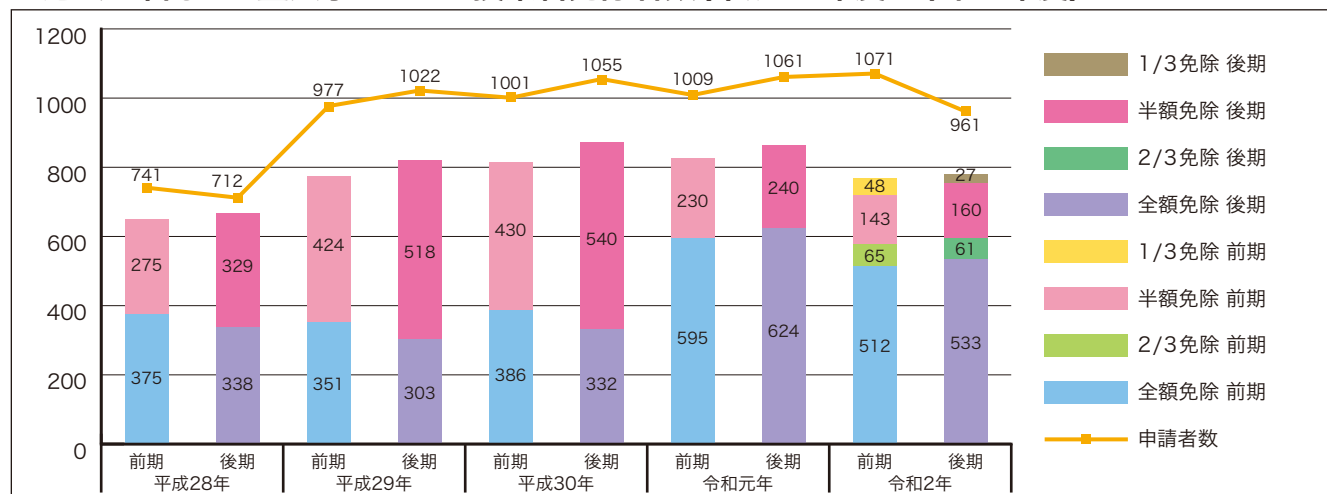
●授業料免除

学部・研究科名		申請者数			全額免除		2/3免除		半額免除		1/3免除		免除者計	
		前期	後期	合計	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人文	学部	173	151	324	94	99	7	6	17	22	9	4	127	131
	修士	12	13	25	8	8	-	-	4	4	-	-	12	12
教育	学部	133	109	242	61	69	12	13	12	13	10	4	95	99
	修士	16	17	33	8	8	-	-	2	3	-	-	10	11
医学	学部	145	131	276	81	83	11	10	15	18	0	0	107	111
	修士	5	6	11	2	2	-	-	0	0	-	-	2	2
	博士	17	17	34	8	8	-	-	4	3	-	-	12	11
工学	学部	252	228	480	94	97	19	23	32	35	23	11	168	166
	博士前期	85	85	170	43	45	-	-	29	28	-	-	72	73
	博士後期	5	7	12	2	4	-	-	1	1	-	-	3	5
生物資源	学部	171	143	314	76	76	16	9	20	25	6	8	118	118
	博士前期	35	34	69	20	20	-	-	6	6	-	-	26	26
	博士後期	13	13	26	8	8	-	-	1	1	-	-	9	9
地域イノベ	博士前期	5	3	8	3	3	-	-	0	0	-	-	3	3
	博士後期	4	4	8	4	3	-	-	0	1	-	-	4	4
合 計		1,071	961	2,032	512	533	65	61	143	160	48	27	768	781

●令和2年度授業料免除者数



●過去5年間の三重大学における授業料免除者数(平成28年度～令和2年度)



入寮許可状況報告

●男子学生寄宿舍

定員:109名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
令和2年度	前期試験合格者対象(注1)	44	20	20	2名辞退
	後期試験合格者対象(注2)	31	10	10	

●女子学生寄宿舍

定員:60名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
令和2年度	前期試験合格者対象(注1)	36	48	36	1名辞退
	後期試験合格者対象(注2)	30	3	3	

(注1) AO推薦入学試験合格者及び編入学試験合格者(医学部看護学科)を含む。
(注2) 編入学試験合格者(人文学部、工学部及び生物資源学部)を含む

●国際女子学生寄宿舍

定員:日本人学生50名 留学生25名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
令和2年度	日本人学生	23	23	23	
	留学生	0	0	0	

●留学生会館

定員:35室		募集人数	申請者数	許可者数	備考
令和2年度	単身室(30人)	2	2	2	新型コロナウイルス対策のため、継続入居者以外の新規募集は行わなかった。
	夫婦室(5室)	0	0	0	新型コロナウイルス対策のため、継続入居者以外の新規募集は行わなかった。

●留学生寄宿舍A棟

定員:49名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
令和2年度	単身室(17人)	4	3	3	新型コロナウイルス対策のため、ワンフロアの入居者数を8人までとしたため、例年より募集人数が少ない。
	4人部屋(32人)	0	0	0	募集は行わず、全室天津師範大学CDプログラムの学生が入居予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により渡日できなかったため。

●留学生寄宿舍B棟

定員:35名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
令和2年度	単身室(35人)	8	4	4	新型コロナウイルス対策のため、ワンフロアの入居者数を8人までとしたため、例年より募集人数が少ない。

●留学生寄宿舍C・D棟

定員:85名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
令和2年度	単身室(29人)※	13	4	4	新型コロナウイルス対策のため、4人部屋の入居者数を2人までとしたため、例年より募集人数が少ない。
	4人部屋(56人)	8	7	7	

※C棟の留学生用単身室は9部屋。C棟には他に研究者用単身室が6部屋ある。

学生保険の加入について

● 学生教育研究災害傷害保険・学生教育研究賠償責任保険

令和2年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人文学部		290	162	55.9%
教育学部		205	121	59.0%
医学部		205	188	91.7%
工学部		438	303	69.2%
生物資源学部		272	145	53.3%
人文社会科学研究科		15	8	53.3%
教育学研究科		35	20	57.1%
医学系研究科	(博士課程)	35	18	51.4%
	(修士課程)	17	11	64.7%
工学研究科	(博士後期課程)	9	4	44.4%
	(博士前期課程)	206	141	68.4%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	7	6	85.7%
	(博士前期課程)	63	39	61.9%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	7	7	100.0%
	(博士前期課程)	10	9	90.0%
合計		1,814	1,182	65.2%

● 学研災付帯学生生活総合保険

令和2年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人文学部		290	11	3.8%
教育学部		205	14	6.8%
医学部		205	52	25.4%
工学部		438	37	8.4%
生物資源学部		272	17	6.3%
人文社会科学研究科		15	0	0.0%
教育学研究科		35	3	8.6%
医学系研究科	(博士課程)	35	0	0.0%
	(修士課程)	17	0	0.0%
工学研究科	(博士後期課程)	9	0	0.0%
	(博士前期課程)	206	7	3.4%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	7	0	0.0%
	(博士前期課程)	63	5	7.9%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	7	0	0.0%
	(博士前期課程)	10	0	0.0%
合計		1,814	146	8.0%

● 大学生協の学生総合共済

令和2年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人文学部		290	194	66.9%
教育学部		205	105	51.2%
医学部		205	138	67.3%
工学部		438	316	72.1%
生物資源学部		272	208	76.5%
人文社会科学研究科		15	186 ※大学院は研究科毎の 加入者数は不明	46.0%
教育学研究科		35		
医学系研究科	(博士課程)	35		
	(修士課程)	17		
工学研究科	(博士後期課程)	9		
	(博士前期課程)	206		
生物資源学研究科	(博士後期課程)	7		
	(博士前期課程)	63		
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	7		
	(博士前期課程)	10		
合計		1,814	1,147	63.2%

● 学研災・学研賠又は大学生協保険の加入者について

令和2年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人文学部		290	276	95.2%
教育学部		205	204	99.5%
医学部		205	201	98.0%
工学部		438	407	92.9%
生物資源学部		272	267	98.2%
合計		1,410	1,355	96.1%

令和2年度 クラブ・サークル一覧

●体育系・全学

令和2年7月1日現在

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	陸上競技部	31	10	41	31	ジャグリアーノ(ジャグリングサークル、大道芸)	19	14	33
2	水泳部	12	6	18	32	ロボコンクラブM3RC	6	0	6
3	硬式野球部	26	4	30	33	BLUE MARINE(スキダ'化'ング)	30	13	43
4	準硬式野球部	20	7	27	34	バスケットボール同好会(休部)	0	0	0
5	サッカー部	24	2	26	35	スキューバダイビングサークル	23	11	34
6	ラグビー部	12	4	16	36	天狗う(よさこいサークル)	8	22	30
7	アメリカンフットボール部	23	6	29	37	サイクリングサークル	37	0	37
8	馬術部	3	5	8	38	合気道・武の道	5	9	14
9	硬式テニス部	7	1	8	39	ライブレイク(釣り・アウトドア)	30	3	33
10	ソフトテニス部	15	11	26	40	NEXT(ダンス)	14	23	37
11	ハンドボール部	15	2	17	41	極津(よさこい)	0	16	16
12	バレーボール部	9	11	20	42	WILL(テニス)	29	24	53
13	バスケットボール部	7	8	15	43	Wild Geese(アウトドア)	117	37	154
14	バトミントン部	7	2	9	44	日本拳法部	4	4	8
15	卓球部	22	6	28	45	電気自動車研究会	2	1	3
16	ダンス部	9	16	25	46	Links (ソフトテニス)	16	1	17
17	柔道部	1	0	1	47	バドミントンサークル ひらめ	16	9	25
18	剣道部	21	7	28	48	CHASE (テニス)	30	7	37
19	空手道部	1	2	3	49	サバイバルゲームサークル	15	0	15
20	少林寺拳法部	10	8	18	50	ITFテコンドーサークル	7	5	12
21	合気道部	8	8	16	51	フロアボールサークルOCEAN	11	1	12
22	ワンダーフォーゲル部	7	0	7	52	自然環境リテラシークラブ(NELC)	10	5	15
23	自動車部	9	0	9	53	女子ハンドボール部	0	8	8
24	弓道部	13	6	19	54	ドローンサークル TakeOff	4	0	4
25	洋弓部	2	1	3	55	競技スキー部	7	3	10
26	ヨット部	9	3	12	56	げつバド	12	9	21
27	ボート部(休部)	0	0	0	57	MBC(軟式野球)	17	6	23
28	端艇部(カッター部)	5	2	7	58	HOMESTEAL(軟式野球)	30	4	34
29	トライアスロン部	23	3	26	59	蹴る!マッハ(シューマッハ)	8	0	8
30	応援団	17	19	36	合計(体育系・全学) 59		875	395	1270

●体育系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	医学部サッカー部	22	14	36	11	医学部バレーボール部	16	21	37
2	医学部野球部	22	4	26	12	医学部卓球部	32	39	71
3	医学部陸上競技部	14	14	28	13	医学部剣道部	16	17	33
4	医学部ゴルフ部	34	29	63	14	医学部弓道部	17	17	34
5	医学部ラグビー部	22	12	34	15	医学部空手道部	12	10	22
6	医学部ハンドボール部	23	16	39	16	医学部競技スキー部	7	3	10
7	医学部ソフトテニス部	14	22	36	17	医学部水泳部	8	9	17
8	医学部硬式庭球部	25	30	55	18	医学部山岳部	27	9	36
9	医学部バスケットボール部	13	15	28					
10	医学部バドミントン部	22	18	40	合計(体育系・医学部) 18		346	299	645

●文化系・全学

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	管弦楽団	8	24	32	28	天文サークル SOLA	25	18	43
2	吹奏楽団	11	16	27	29	BBS(教育ボランティア)	9	34	43
3	ギターマンドリンクラブ	9	9	18	30	ぶるさぁ。(アソビソングサークル)	19	21	40
4	ギタークラブ	8	5	13	31	Pioneer(アカペラ)	20	20	40
5	邦楽部	3	5	8	32	アンビシャスカード(マジック)	21	7	28
6	室内楽団	2	5	7	33	食農サークル 農らく	25	16	41
7	写真部	9	9	18	34	DTMサークルJack	8	2	10
8	合唱団	14	13	27	35	てらこや(国際交流サークル)	4	1	5
9	美術部	4	13	17	36	Meiku [メイク(地域おこし)]	18	13	31
10	漫画倶楽部	6	5	11	37	つくしんぼサークル(子供ボランティア)	6	51	57
11	ESS	14	17	31	38	mil-poa(手芸サークル)	1	13	14
12	軽音楽部	35	22	57	39	カフェ・サークル Le Lien	13	21	34
13	ピアノ同好会 KLUB KLAVIER	16	8	24	40	ジャズサークル Three Time Jazz Orchestra	4	11	15
14	表千家茶道部	4	15	19	41	Bio Record (標本作製サークル)	3	0	3
15	裏千家茶道部	1	17	18	42	計算研究会	27	0	27
16	TRPG同好会	14	2	16	43	トラップーズ	10	0	10
17	創作活動サークル リカゲル	6	7	13	44	aquri-M	14	4	18
18	囲碁・将棋部	34	3	37	45	三重創生ファンタジスタクラブ	21	14	35
19	放送イベントサークル HELLO FM!!	10	3	13	46	忍者部	5	7	12
20	献血推進サークル“ヴァンパイア”	4	9	13	47	歴史研究会	13	5	18
21	エレクトーンサークル23-tow・three-	5	12	17	48	ESD-SDGs	6	6	12
22	万葉旅行の会	3	6	9	49	DOT	4	5	9
23	Bb	39	22	61	50	競技かるたサークル	7	11	18
24	かめっぷり	11	9	20	51	YouTubeサークル-ぼnds-	3	0	3
25	劇団アディスト(演劇)	5	5	10	52	農業サークル カルテット	6	4	10
26	ねこサークル	17	27	44	53	オカルト研究部	0	5	5
27	編入サークル Transfer	3	0	3	合計(文化系・全学) 53		587	577	1164

●文化系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	東洋医学研究会	23	15	38	8	小児科訪問ボランティアサークルぞくよん	7	28	35
2	医学部軽音楽部	17	18	35	9	MUSH (Mie University Students Helper)	4	3	7
3	Session サークル BAG	31	20	51	10	JAZZ BAR	1	4	5
4	きゅうめい部	35	26	61	11	すずみえ(慢性疼痛・多職種連携勉強会)	7	2	9
5	U-Cam	2	6	8	12	学生国際協力団体 HeartsTree	2	6	8
6	良き医療者をめざす学生研究会	74	14	88	13	しまうま	5	1	6
7	MIE-project	4	7	11	合計(文化系・医学部) 13		212	150	362

令和2年度クラブ・サークル数 143

男	女	計
2020	1421	3441



障がい学生支援室

令和2年度 障がい学生支援室活動報告

1 障がいのある学生に関する相談支援

表1に令和2年度の障がい学生に関する相談件数及び対応人数を示した。相談件数は264件であり、延べ人数は378名、実人数は103名であった。そのうち、教職員からの相談件数は125件、延べ人数は175名、実人数は43名であった。障がいのある学生の延べ人数は103名、実人数は25名であった。

表1 令和2年度障がい学生に関する相談件数及び対応人数

	相談対応件数				相談者延人数				相談者実人数			
		障がい学生	教職員	その他		障がい学生	教職員	その他		障がい学生	教職員	その他
4月	26	17	3	8	28	17	3	8	16	7	3	6
5月	12	6	4	4	14	6	4	4	12	5	3	4
6月	23	14	10	3	36	14	16	6	18	1	3	5
7月	27	6	18	8	44	6	27	11	22	3	14	5
8月	12	3	5	7	18	3	6	9	10	2	4	4
9月	28	11	15	8	40	11	20	9	21	5	11	5
10月	33	11	18	6	37	11	20	6	15	6	7	2
11月	8	2	4	6	16	2	6	8	12	1	6	5
12月	10	4	5	1	11	4	6	1	10	3	6	1
1月	17	3	8	6	17	3	8	6	12	3	4	5
2月	9	2	4	4	11	2	4	5	10	2	4	4
3月	59	24	31	23	106	24	55	27	36	10	17	9
合計	264	103	125	84	378	103	175	100	※103	※25	※43	※35

※実人数は、令和2年度の年間実人数であり、合計で示さない。

※障がい学生：障がいのある可能性を考慮しながら対応している学生を含む。

※その他：保護者、学外機関担当者

2 現場への支援機器(AT)導入を目的とした「ATライブラリー」の創設及び充実

- ・ ATライブラリーに係る各種支援ツールの整備を行い、支援ツール一覧冊子の作成やホームページの改修等を行った。

3 「障がい学生支援調整会議」の機能強化・拡充

障がい学生支援室と学生総合支援センター長、各部局選出の監督者及び学務担当係長によって構成される「障がい学生支援調整会議」を5回実施した。本会議の成果は以下のとおりである。

- ・ 合理的配慮の実施状況に関するモニタリング調査を学生及び教職員に実施し、状況把握及び事例の共有、蓄積を行った。
- ・ 第1回～第5回の会議において、部局における支援状況についての情報交換を行った。第5回の会議においては、各学部からの事例報告を行い、共有された情報をもとに、来年度の障がい学生支援の在り方について協議した。
- ・ 合理的配慮の申請手続きの整備を行い、より体系的な支援体制の拡充を行った。
- ・ 今年度から新たに地域イノベーション研究科、国際交流センター、教養教育院が参加し、全学的な連携体制を拡大することができた。

4 学内関係部局および外部関係機関等との情報交換の推進

- ・ 本学保健管理センター教授(精神科医)の谷井久志先生を招聘し、「コロナ禍における大学生のメンタルヘルス」というテーマで障がい学生支援セミナー2020を開催した。セミナーの参加者は54名(学内43名、学外11名)であった。セミナー後は、各学部部の監督者等と舩越先生との意見交換会を実施した。(2月18日)
- ・ 教育学部の教職員に対して、「大学における障がい学生支援と発達障害について」というテーマでFDを行った。(11月11日)
- ・ 障がい学生支援室、キャリア支援センター、学生なんでも相談室、ハローワーク津、ハローワーク四日市、三重県自閉症・発達障害支援センター、三重県障害者職業センター、若者就業サポートステーションみえの担当者が必要に応じていつでも情報共有できるよう、メーリングリストを作成し連携機能を強化した。
- ・ 岐阜大学が主催するウェビナー「COVID-19流行下で発達障害学生には何が起こっていたのか」に参加し、コロナ禍における発達障害学生の状況について聴講及び意見交換を行った。(9月6日)
- ・ 筑波大学が主催するウェビナー「発達・精神障害のある学生とどう向き合うか」に参加し、発達障害や精神障害のある大学生との関わり方について聴講及び意見交換を行った。(9月28日)
- ・ 発達障害者を中心とした就労支援を行う株式会社エンカレッジの窪貴志代表取締役と障がい学生の就職支援について現状や課題を共有した。(11月27日)
- ・ 一般社団法人fabricaが主催するウェビナー「新型コロナによって発達障害等コミュニケーション困難学生支援はどのように変化したか」に参加し、発達障害のある者のコロナ禍における修学面・就労面での変化について聴講及び意見交換を行った。(1月22日)

5 ACS学生委員会に所属する学生サポーターの支援技能を養成

- ・ 教養教育において「障がい学生支援実践」の授業を開講した。受講者は42名であった。
- ・ ACS学生委員会を組織し、28名の学生が委員会活動に参加した。
- ・ 障がい支援のマスコットキャラクター作りを行い、障がい支援サポーターに必要な能力を象徴する5匹の動物をモチーフにした「サポートフレンズ」を作成した。
- ・ ACS学生委員会の広報用動画を作成し、広報室を通じて学内に発信した。(12月)
- ・ 学生同士がつながれる機会作りとしての「〇〇の人、何してるん？」(ピアサポーター学生委員会との連携企画)を開催した。
- ・ サポーターズフォーラム@成城大学に参加し、他大学のサポーターと障がい支援(バリアフリー)に関する交流を行った。(11月21日)
- ・ 日本福祉大学・PEPNet-JAPANが主催する「遠隔パソコンテイク講座」に参加し、遠隔(オンライン)でのパソコンテイクスキルの習得に取り組んだ。(2月9日、22日、3月2日)
- ・ アクセシビリティリーダー育成協議会への入会が承認され、協議会が提供するサポーター学生へのオンライン研修の利用が可能となった。そこで障がい支援に関する知識習得を目的として、アクセシビリティリーダー育成プログラムのオンライン講座の受講を行った。(2月～3月)

6 その他

- ・ 風間(教員)が東海地区障害学生支援フォーラムの役員として役員会に出席した。来年度三重大が開催校となっている「東海地区障害学生支援フォーラム第10回大会」について、実施時期やテーマ等について協議を行った。(2月19日)

三重大学障がい学生支援セミナー2020 実施報告

令和3年3月18日(木)に行った障がい学生支援セミナー2020 について下記の通り報告する。

1 参加者内訳

(名)

学外関係者	8(6)
学内関係者	40(25)
不明	1(0)
計	49(31)

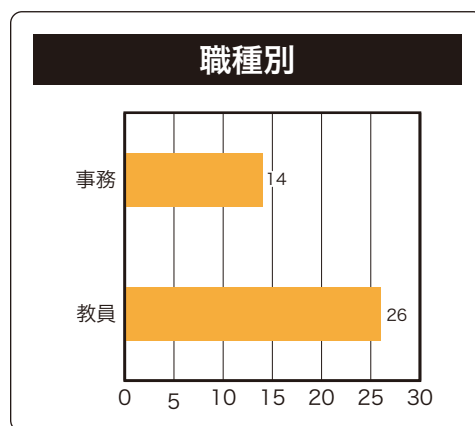
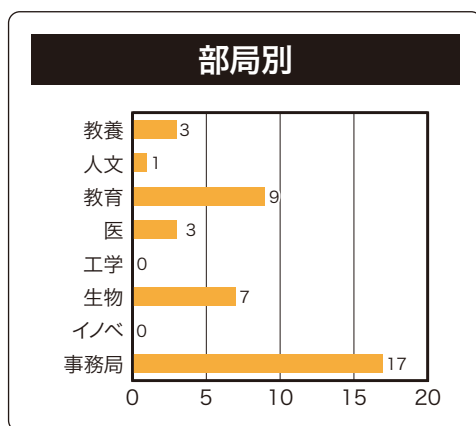
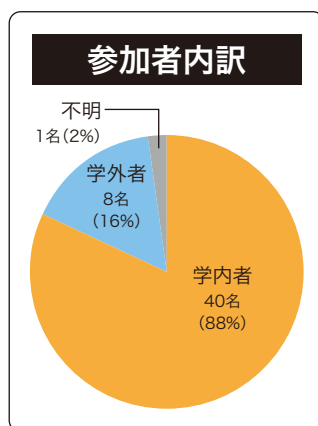
※数字は参加人数()はアンケート回収数
「不明」は名前で学内外が特定できなかった参加者

2 学内参加者内訳

(名)

	教養	人文	教育	医	工学	生物	イノベ	事務局	計
教員	3	1	9	3		6		4	26
事務						1		13	14
学生									
計	3	1	9	3	0	7	0	17	40

※学部以外のセンター等については、事務局へ含む。



下記、セミナー時に行ったアンケート結果(回収数31名)について記載する。

3 セミナーを知ったきっかけ(複数回答可)

学内会議	ポスター	E-mail	友人知人	その他	無回答	計
9	1	21	0	0	0	31

4 講演内容が、今後の学生対応にどれくらい役に立つと思うか

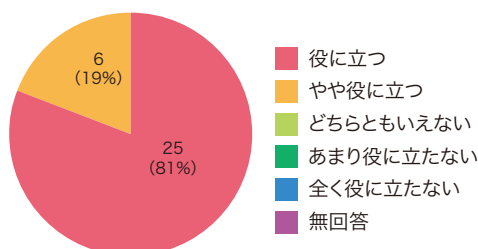
●三重大学における支援体制について(障がい学生支援室 風間惇希先生)

役に立つ	やや役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	全く役に立たない	無回答	計
25	6	0	0	0	0	31

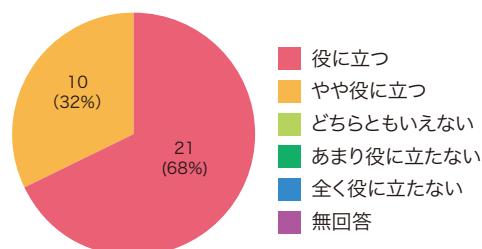
●コロナ禍における大学生のメンタルヘルス(保健管理センター 谷井久志先生)

役に立つ	やや役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	全く役に立たない	無回答	計
21	10	0	0	0	0	31

三重大学における支援体制について



コロナ禍における大学生のメンタルヘルス



5 今回の講演について

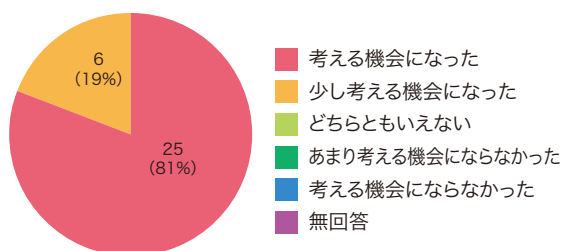
●今回の講演は、障がい学生への対応について考える機会となった

考える機会になった	少し考える機会になった	どちらともいえない	あまり考える機会にならなかった	考える機会にならなかった	無回答	計
25	6	0	0	0	0	31

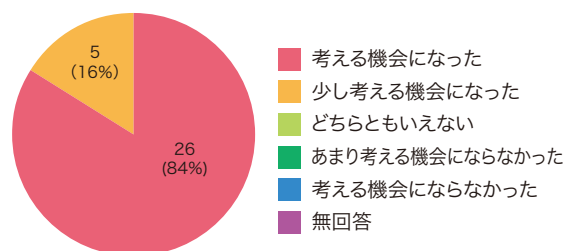
●今回の講演は、コロナ禍における大学生のメンタルヘルスについて考える機会となった

考える機会になった	少し考える機会になった	どちらともいえない	あまり考える機会にならなかった	考える機会にならなかった	無回答	計
26	5	0	0	0	0	31

障がい学生への対応について考える機会となった



コロナ禍における大学生のメンタルヘルスについて考える機会となった



6 講演についての意見や感想など 12件

【講演内容の意義等に関する感想や意見】

- ・ありがとうございました
- ・考え方の整理になりました。ありがとうございました。
- ・先に各部署のコロナ禍で生じた困っていることなどを集めておいていただいてもよかったのかなと思いました。ありがとうございました。
- ・非常に参考になるものでした。
- ・貴重なお話を伺うことができて良かったです。谷井先生、風間先生、どうもありがとうございました。日頃からコロナに対する対応や感じ方の個人差がかなり広いと感じています。学生への対応にも神経を使いますが、それぞれのパーソナリティに応じた(合わせた)、程々のところでの対応軸を探りながらやってきました。4月から学生も一部戻ってくると予想しますが、今回のお話いただいたことを踏まえて対応してまいりたいと思います。
- ・本日はありがとうございました。とても参考になりました。
- ・今回のセミナーは本当にためになるものでしたので、今の時間に参加できなかった先生方にも、たとえば、録画されたものを見るなどの機会を作っていただけるとありがたいと思いました。本当にありがとうございました。
- ・ご講演ありがとうございました。風間先生、谷井先生ともに、明確な内容で大変勉強になりました。お二方のご講演内容を合わせ、特に配慮や支援が必要な学生さんのコロナ禍をめぐるメンタルケアについて、組織的取り組みはもちろんのこと、教員個人の具体的な授業場面や学生対応場面でのどのように判断、対応していけるのかということが気になっています。教員自身も当該事象に非常にストレスを抱える中での対応として不安がありますが、関係機関にもご相談の上、がんばってまいりたいと思います。
- ・人と人とのつながりが、メンタルにおいて重要なことだと感じ、快適な学生生活を送ることで、勉学に勤しめることにつながるという事を学びました。
- ・最後の風間先生がされたご質問と、谷井先生がされたご回答はとても重要なものだと考えます。学生に対しては「こういう条件の下で積極的に活動してください」という方向性の議論および方針の示し方(活動したくなる情報提示の仕方)を今後もっと増やしていく必要があるものと考えます。
- ・風間先生のお話で障がい学習支援室の役割についてよくわかりました。非常に重要な部署だと思います。谷井先生の講演では、コロナ一般の話からスペイン風邪と文学、美術まで話が広がりどれもたいへん興味深いものでした。ただ情報が多すぎたのでついていけないところがありました。もう少し絞ってもよかったと思います。一方で、たとえばオンライン授業で学生に対応する場合など現場における具体的な問題と対応策についても話があるとさらにありがたかったと思います。有意義な講演会だったと思いますが、ただ参加者が思いのほか少なくもったいない気がしました。
- ・今回は障がい学生支援(合理的配慮)の概略と、コロナ禍における学生のメンタルヘルスの話が中心でしたが、閉会挨拶の中でおっしゃられた災害時における障がい学生の支援や、本学内の障がい学生支援に対する意識の醸成など、まだまだ課題は沢山ございます。また機会がございましたら、参考になるお話など聞かせていただけると幸いです。本日はありがとうございました。



学生なんでも相談室

令和2年度 活動報告

1 相談・援助活動

(1) 来談者に関する統計

	新規相談受付						案内	Co.による 継続面接	その他の 継続対応	合計
	教育	心理	進路	生活	その他	合計				
4月	2	1	0	0	0	3	23	16	41	83
5月	2	1	0	0	0	3	41	14	43	101
6月	5	4	0	0	0	9	60	22	49	140
7月	10	2	1	0	0	13	41	25	60	139
8月	1	2	3	2	0	8	53	12	42	115
9月	5	4	0	1	0	10	48	33	87	178
10月	1	4	1	1	0	7	41	30	50	128
11月	2	7	0	0	0	9	29	26	46	110
12月	2	4	2	0	0	8	17	18	29	72
1月	4	3	0	0	0	7	32	31	62	132
2月	1	3	3	1	0	8	29	30	54	121
3月	1	3	3	0	0	7	49	30	49	135
合計	36	38	13	5	0	92	460	287	615	1454

※数字はいずれも延べ人数を示す。

※「Co.」は心理カウンセラーを指す。

※「新規相談受付」件数の「その他」は、心理テスト・箱庭療法体験、分類困難な相談等の総数を示す。

※「案内」は事務的な案内や比較的軽微な相談等、およびピアサポーターによる相談対応件数の総数を示す。

※「その他の継続対応」は、主にCo.による担当事例に関する面接室外のケースワーク活動等の総数を示す。

(2) ピアサポーターによる支援活動

- * 「新入生向け先輩相談会」への協力【4月：オンライン】
- * 動画の制作およびYouTubeでの公開【7月、2月(計6本)】
- * プレゼン練習会【7月：オンライン】
- * ACS学生委員会との共催による「秋の履修相談会」【9月：オンライン】
- * ACS学生委員会との共催による新入生対象のオンライン交流会【9月、10月、11月：オンライン】
- * 委員会名義によるインスタグラムの開設【10月】
- * 成城大学主催イベント(サポーターズフォーラム)への参加【11月：オンライン】
- * ピアサポーター内部研修会「ピアサポートの軸(活動指針)」づくり【12月：ピアサポートルーム】
- * 追手門学院大学、東京工業大学の各ピアサポーター組織との交流会【いずれも2月：オンライン】
- * ぴあのわ(全国大学ピアサポーター合同研修会)への参加【2月：オンライン】
- * YouTubeライブによる「ピアサポスタディLIVE」の配信【1月、2月：オンライン】
- * 年間38回のミーティング実施【2月末現在：オンライン&対面のハイブリッド】

2 教育・広報活動

(1) 教育活動

授業の担当(いずれも鈴木によるもの)

教養教育	前期	「ピアサポート実践」※副担当に風間惇希講師(障がい学生支援室)
教養教育	後期	「こころのサポート」
教養教育	後期	「学生生活支援実践」
教養教育	後期	「ピアサポート実践」※主担当は風間惇希講師(障がい学生支援室)
教育学部	前期	「家族システム支援論」
教育学研究科	前期	「学校臨床心理学特論演習」

(2) 広報活動

①教職員研修(FD・SD)

人文学部FD

シンポジウム「大学教育におけるオンライン授業が提起したもの」

※パネリストとして鈴木が参加

【令和2年9月9日】

②広報

- ・コロナ禍における学生相談活動に関する大学ホームページを用いた案内
- ・ユニバ(全学配信メール)を活用した広報
- ・学生対応を行う教職員を対象とした「学生なんでも相談室ニュース」の配信

3 研究・研修・講演・地域連携

(1) 研究

- ・コロナ禍(およびオンライン授業)の学生生活への影響に関する全学アンケートの実施及び分析 【5月、9月】
- ・日本ブリーフサイコセラピー学会 特別企画オンライン・シンポジウム「コロナに負けないブリーフセラピー」に鈴木が参加。【令和2年9月22日:オンライン】
- ・相談室におけるコロナ禍の影響(利用傾向)に関する分析 【3月】
- ・研究論文『授業を通じたピア・サポート活動の実践―授業「学生生活支援実践」の試み―』(鈴木)
学生相談研究41巻 第3号に掲載 【3月】

(2) 研修(および学生相談に関する情報収集)

- ・大学カウンセラーミーティング2020(主催:日本学生相談学会 大学カウンセラー会)に鈴木が参加。
【令和2年5月17日:オンライン】
- ・第51回学生相談セミナー(主催:日本学生相談学会)に鈴木が参加。【令和2年8月2日:オンライン】
- ・Webinar「COVID-19流行下で発達障害学生には何が起こっていたのか」(主催:岐阜大学)に鈴木が参加。
【令和2年9月6日:オンライン】
- ・令和2年度「学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー」(主催:日本学生支援機構)に鈴木が参加。
【令和2年12月11日:オンライン】
- ・第54回全国学生相談研究会議webシンポジウム(主催:全日学生相談研究会議)に鈴木が参加。
【令和3年1月25日:オンライン】
- ・第14回学生応援フォーラム(主催:東京工業大学)に鈴木が参加。【令和3年2月22日:オンライン】

(3) 講演・地域連携

- ・三重県立看護大学 ハラスメント防止等に係る研修会【ハラスメント調整員対象】 講師
テーマ「ハラスメント調整員に求められる対応」
令和2年5月27日 オンライン (鈴木)
- ・三重県立看護大学 ハラスメント防止等に係る研修会【全教職員対象】 講師
テーマ「ハラスメントに係る相談の実際」
令和2年9月2日 オンライン (鈴木)

令和2年度 学生なんでも相談室スタッフ

室 長	鈴木 英一郎	(学生総合支援センター 講師)
カウンセラー	藤川 和	(非常勤)
	牧野 勢津子	(非常勤)
	伊藤 拓	(非常勤)
	早川 史乃	(非常勤)
インターカー	浮田 めぐみ	(事務補佐員)

先生方におかれましては、日頃より学生なんでも相談室の活動にご理解、ご支援をいただき、誠に有難うございます。

2012年度より当相談室ではニューズレター「学生なんでも相談室ニュース」を発行して、相談室の活動状況などを紹介しております。ご多忙の折、大変恐縮ですが、ぜひご覧いただけましたら幸いです。

1 相談室利用状況から(コロナ禍の相談室)

◎ 令和2年度コロナに関連した相談の状況

	4月		5月		6月		7月		8月	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
A	36	83	43	101	27	140	27	139	32	115
B	7	7	17	26	12	26	10	27	21	40
C	0	0	6	14	5	18	7	23	3	13
(B/A)		8%		26%		19%		19%		35%

	9月		10月		11月		12月		1月	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
A	30	178	21	128	15	110	15	72	16	132
B	7	20	8	23	6	26	5	12	7	23
C	2	12	3	16	2	21	2	9	3	19
(B/A)		11%		18%		24%		17%		17%

A: 相談室利用総数 B: 「コロナ禍」が影響したと考えられる相談対応件数
C: Bの内、「カウンセリング」を行った件数(内数) B/A: コロナに関連した相談の割合

上記の表は、令和2年度の当相談室における「コロナに関連した相談」の状況をまとめたものです(1月末日現在)。ご覧いただくと、必ずしも「コロナ関連」一色ということでもなく、割合で見れば全体の20%前後程度であったことが分かります。ただし、これは、あくまで純粋に「コロナ禍やその影響に関する話題を扱った相談」のみを算出したものであって、実際は全てのケースにおいて、多かれ少なかれ、何らかの形でコロナの影響があったことは間違いないと思われます。

また、例年であれば、夏休みや冬休みなどの長期休暇中は、かなり来談件数も少なくなっていたはずなのですが、今年度は授業期間中と変わらないペースで利用されていたことが分かりました。長期休暇中だからこそ、不安や孤独感を募らせてしまうようなケースも多かったのかもしれません。

また、今回掲載はしておりませんが、「コロナに関連した相談」の具体的な相談内容に関する1年間の推移を見てみると、前期、特に初めの頃は、オンライン授業への対応に関する悩み事や不満などの話が多く寄せられていましたが、次第に、孤独感や気が滅入るといった種類の心理相談が増えていったことが分かりました。長引くコロナ禍において、最初は通常とは異なる学生生活への適応に精一杯だった学生たちも、それが次第に日常となっていく中で、ようやく少しずつ自身の疲れや孤独感にも気持ちが向くようになっていったのではないかと考えられます。

なお、上記は1月末日現在の数字ですが、今年度の来談者数全体としては、昨年度と比較して実数ベースでは大幅なマイナスとなる見込みです。これは、例年であれば新入生からの質問や相談が殺到する4月において、新規受付と窓口案内業務を中止せざるをえなかった(新規受付は5月以降に再開)ことの影響であろうと考えられます。一方、延数ベースでは、昨年度と比較しても同等程度の数になると見込まれています。この結果をシンプルに解釈すれば、今年度は利用した学生一人あたりへの対応回数がより多かったことを示しているとも言えます。1年間ほぼ電話・メール・オンライン(Zoom)のみの相談活動であった今年度でしたが、そんな中でも一定の役割を果たすことができたのではないかと考えます。

2 新年度を迎えるにあたって

今年度は、先生方におかれましても、イレギュラーな学生対応にご苦労をされた1年だったかと存じます。しかしながら、新年度(令和3年度)においても引き続き、少なくとも比較的学年の若い(研究活動に入っていない)学生たちについては、しばらくは現状のような対応を続ける必要がありそうです。

新入生への対応では、また今年度4月と同様の注意が求められると考えます。つまり、本来であれば新しい人間関係の形成にとっても重要な4月において、限定的な接触機会しか与えられない中で(抱えている不安の共有もままならず)、孤独に過ごす学生が一定数存在するであろうことが予想されます。特に新年度では、5月以降の対面授業に備え、当初から下宿を始める学生も今年度より多いでしょうし、その点では、さらにリスクの高い状況であると言えるかもしれません。1年生を担当される先生方におかれましては、こちらから積極的に連絡を取るなどして、継続的に個々の学生の状況確認をしていただきたいと存じます。また、その際には、できればメールよりもお電話で直接お話していただくことで、親近感を感じてもらいやすくなり、何かあった際に学生側からも連絡が取りやすくなるのではないかと考えます。

一方、新2年生であっても、友だち作りのこと、打ち込めるものを見つけること、学力のことなど、本来であれば1年生の段階でクリアすべき様々な課題が積み残されたままに進級している可能性が考えられます。そもそも大学に来る機会もなかった学生がほとんどですから、大学生活の基本知識ともいえる教室の場所や履修の仕方などに関する理解が不十分であってもおかしくはありません。さらには、学生の方も「2年生にもなってこんなことを聞くのは恥ずかしい」と考えてしまうと、困っていてもなかなか自分から支援を求めるようなことができないかもしれません。対応される先生方におかれましても、この新年度は「1年生が2学年分いる」という意識をもっていただき、引き続き、基本的なことから丁寧に対応してあげて欲しいと思います。

◆このニュースレターの内容に関するお問い合わせは下記までお寄せください。

E-Mail sodan@ab.mie-u.ac.jp

◆このニュースレターに掲載された全ての記事、文章等の無断転載を禁止します。

Copyright (C) 三重大学学生総合支援センター 学生なんでも相談室.

All Rights Reserved.



キャリア支援センター

令和2年度 活動報告

1 キャリア教育科目について

キャリア教育領域

科目群	授業科目・単位	(分野 H26年度以前 入学者対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
					前期	後期	前期	後期
キャリア教育基礎	キャリア教育入門 2単位	社会	キャリア	長岡 みか	水5・6	—	79	—
		社会	キャリア	杉町 宏	水7・8	—	24	—
		社会	キャリア	杉町 宏	金9・10	—	61	—
		社会	キャリア	長岡 みか	—	水5・6	—	72
		社会	キャリア	杉町 宏	—	水7・8	—	22
		社会	キャリア	杉町 宏	—	木3・4	—	14
	インターンシップ入門 2単位	社会	インターンシップ	長岡 みか	水7・8	—	17	—
		社会	インターンシップ	杉町 宏	金7・8	—	42	—
		社会	インターンシップ	長岡 みか	—	水7・8	—	40
		社会	インターンシップ	杉町 宏	—	金7・8	—	51
学生支援	ピアサポート実践 2単位	社会	ピアサポート実践	鈴木 英一郎 他	金9・10	—	4	—
		社会	ピアサポート実践	風間 惇希 他	—	金9・10	—	13
	学生生活支援実践 2単位	社会	学生生活支援実践	鈴木 英一郎	—	金7・8	—	7
	学習支援実践 2単位	社会	学習支援の企画と実践	風間 惇希	水9・10	—	8	—
	広報誌編集実践 2単位	社会	広報誌編集実践	長屋 祐一 他	—	木7・8	—	10
就業力育成	ビジネスキャリア入門 2単位	社会	ビジネスキャリア	杉町 宏	水5・6	—	33	—
		社会	ビジネスキャリア	杉町 宏	—	水5・6	—	20
計					5科目	6科目	268	249

キャリア教育関連教養統合科目

地域理解・日本理解領域

科目群	授業科目・単位	(分野 H26年度以前 入学対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
					前期	後期	前期	後期
日本理解 特殊講義	日本理解特殊講義 2単位	社会	起業マインドの醸成	松岡 守 他	—	水3・4	—	13
計					1科目		13	

国際理解・現代社会理解領域

科目群	授業科目・単位	(分野 H26年度以前 入学対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
					前期	後期	前期	後期
心理学	こころのサポート 2単位	社会	こころのサポート	望木 郁代	木1・2	—	82	—
		社会	こころのサポート	風間 惇希	水5・6	—	141	—
		社会	こころのサポート	望木 郁代	—	木1・2	—	71
		社会	こころのサポート	鈴木 英一郎	—	木9・10	—	70
国際理解実践	国際理解実践 2単位	社会	留学生支援実践	風間 惇希	—	水9・10	—	7
現代社会理解実践	現代社会理解実践 2単位	社会	障がい学生への支援	栗田 季佳 他	—	火3・4	—	42
計					1科目	3科目	223	190
合計					6科目	10科目	491	452

2 インターンシップ

令和2年度 インターンシップ参加者数(所属学部・研究科別／学年別)

2021.3.31現在
延べ数

所属	学部生					大学院生			合計
	1年	2年	3年	4年	小計	修士	博士	小計	
人文学部	6	46	113	11	176	1		1	177
教育学部	4		17		21			0	21
医学部			1		1			0	1
工学部	1	5	49	5	60	60	2	62	122
生物資源学部	10	56	63	3	132	3		3	135
地域イノベーション学研究科	-	-	-	-	0	7		7	7
非正規生					0			0	0
合計	21	107	243	19	390	71	2	73	463

■ 企業等受入数(実数) 226機関

■ 事前研修会 527名

■ 事後研修会 136名

3 就職活動支援

(1) 就職ガイダンス

- ・令和2年4月～令和3年3月 29回実施 オンライン開催
- ・参加学生数 延べ 8,564人(2021.3.31)

参加数	NO	日程	曜日	時間帯	場所	ガイダンス名	講師
704	1	5月13日	(水)	17:00～18:00	LIVE配信	就職活動スケジュール・準備について概要	マイナビ
38	2	5月26日	(火)	16:30～18:00	ZOOM	学内企業説明会 (延べ24社)	わくわくスイッチ
		5月27日	(水)	16:30～18:00			
		6月2日	(火)	16:30～18:00			
		6月3日	(水)	16:30～18:00			
185	3	～事後 研修会まで		終日	MOODLE	インターンシップ事前研修会(人文学部)	各学部 キャリア支援センター
168						インターンシップ事前研修会(工学部)	
121						インターンシップ事前研修会(生物資源学部)	
10						インターンシップ事前研修会(教育学部、医学部)	
400	4	6月16日	(火)	16:30～18:00	ZOOM+youtube	インターンシップ企業説明会 (延べ29社)	キャリア 支援センター
		6月17日	(水)	16:30～18:00			
269	5	通年		終日	MOODLE	インターンシップ履歴書対策講座	キャリア 支援センター
135	6	6月30日	(水)	16:30～17:15	LIVE配信	自分に合った業界の探し方講座	ディスコ
138	7	7月1日 ～13日	(火)	終日	オンデマンド配信	適性検査&筆記試験対策講座	マイナビ
38	8	7月29日	(水)	16:30～17:15	LIVE配信	自己PR動画作成講座	学情
400	9	10月3日	(土)	13:00～13:40	LIVE配信& オンデマンドZOOM	保護者様向け就職活動説明会	キャリア 支援センター
-				14:00～		学部別保護者様向け説明会	各学部
29	10	10月29日 11月 4日	(木) (水)	16:20～17:50	ZOOM	インターンシップ事後研修会(人文学部)	各学部 キャリア支援センター
22		10月30日 11月 5日	(金) (水)	16:20～17:50		インターンシップ事後研修会(工学部)	
9		10月27日 11月 2日	(火) (月)	16:20～17:50		インターンシップ事後研修会(生物資源学部)	
0		10月30日 11月 5日	(金) (木)	16:20～17:50		インターンシップ事前研修会(教育学部、医学部)	
9		2月15日	(月)	13:00～14:30		インターンシップ事後研修会(全学部)	
89	11	10月21日	(水)	16:20～17:50	LIVE配信&オンデマンド	企業研究講座	リクナビ
154	12	10月28日	(水)	16:20～17:50	LIVE配信&オンデマンド	エントリーシート対策 自己PR編	マイナビ
295	13	11月3日	(火) (祝)	終日	ZOOM	企業研究会 40社程度(午前20社、午後20社予定)	キャリア支援センター

参加数	N0	日程	曜日	時間帯	場所	ガイダンス名	講師
345	14	11月4日	(水)	13:00～16:10	ZOOM	企業研究会(就職支援講座) 20社程度	キャリア支援センター
80	15	11月10日	(火)	16:20～17:50	LIVE配信&オンデマンド	エントリーシート対策 志望動機編	ディスコ
341	16	11月18日	(水)	13:00～16:10	ZOOM	企業研究会(就職支援講座) 20社程度	キャリア支援センター
296	17	12月16日	(水)	13:00～16:10	ZOOM	企業研究会(就職支援講座) 20社程度	キャリア支援センター
19	18	12月17日	(木)	16:30～18:30	ZOOM	第1回採用担当者が語るぶっちゃけディスカッション	キャリア支援センター
105	19	1月6日	(水)	16:20～17:50	ZOOM	第1回公務員業務説明会(10～15社程度)	大学生協
51	20	1月6日	(水)	16:30～18:30	ZOOM	第2回採用担当者が語るぶっちゃけディスカッション	キャリア支援センター
347	21	1月11日	(月) (祝)	終日	ZOOM	企業研究会 60社	アクセスネクステージ
397		2月11日	(木) (祝)	終日	ZOOM	企業研究会 60社	アクセスネクステージ
350		2月16日	(火)	終日	ZOOM	企業研究会 60社	アクセスネクステージ
321		2月18日	(木)	終日	ZOOM	企業研究会 60社	アクセスネクステージ
255		2月19日	(金)	終日	ZOOM	企業研究会 60社	アクセスネクステージ
192	22	1月12日	(火)	16:20～17:50	LIVE配信&オンデマンド	面接対策講座	マイナビ
117	23	1月20日	(水)	16:20～17:50	ZOOM	第2回公務員業務説明会(10～15社程度)	大学生協
44	24	1月20日	(水)	16:30～18:30	ZOOM	第3回採用担当者が語るぶっちゃけディスカッション	キャリア支援センター
124	25	1月26日	(火)	16:20～17:50	LIVE配信&オンデマンド	就職活動直近ガイダンス (CC:学内企業説明会まわりかた講座 +企業研究ノウハウ含む)	マイナビ
86		1月27日	(水)	16:20～17:50	LIVE配信&オンデマンド		
109	26	2月3日	(水)	16:20～17:50	ZOOM	第3回公務員業務説明会(10～15社程度)	大学生協
24	27	2月3日	(木)	16:30～18:30	ZOOM	第4回採用担当者が語るぶっちゃけディスカッション	キャリア支援センター
105	28	2月12日	(金)	16:20～17:50	LIVE配信&オンデマンド	「超」直前講座	マイナビ
1643	29	3月1日～ 3月5日	(月～金)	終日	ZOOM	学内企業説明会 300社	アクセスネクステージ

(2)ミニ講座(少人数制：個人面接・集団面接・グループディスカッション対策)

- ・令和2年4月～令和3年3月 26回実施 第5会議室 他
- ・参加学生数 延べ135人

	実施日	内容	参加数		実施日	内容	参加数
1	4月3日	個人面接対策	6	14	7月15日	個人面接対策	5
2	4月8日	個人面接対策	5	15	7月22日	個人面接対策	3
3	4月15日	個人面接対策	4	16	7月28日	個人面接対策	6
4	4月24日	個人面接対策	6	17	8月5日	個人面接対策	6
5	5月8日	個人面接対策	5	18	8月19日	個人面接対策	3
6	5月13日	個人面接対策	6	19	8月26日	個人面接対策	3
7	5月20日	個人面接対策	6	20	2月17日	個人面接対策	6
8	5月27日	個人面接対策	6	21	2月22日	個人面接対策	6
9	6月3日	個人面接対策	6	22	2月24日	個人面接対策	6
10	6月12日	個人面接対策	5	23	3月8日	個人面接対策	6
11	6月17日	個人面接対策	5	24	3月17日	個人面接対策	5
12	6月24日	個人面接対策	4	25	3月19日	個人面接対策	6
13	7月6日	個人面接対策	5	26	3月22日	個人面接対策	5
							計135

(3)就職相談

- ・キャリアカウンセラー就職相談〔就職相談コーナー〕

【月別・相談内容別件数】

その他(送付状・お礼状・E-mail作成)

延べ数

	就職 相談	進路決定 相談	活動概況 報告	内定・内 定の相談	履歴書 作成	エントリー シート作成	志望 動機	自己 PR	面接	メンタル 面	留学生の 相談		自己 分析	その他	合計
4月	34	1	0	4	4	38	1	1	57	0	0	0	0	4	144
5月	28	0	0	7	7	24	3	4	70	1	0	0	0	1	145
6月	39	3	0	13	0	80	0	2	51	0	0	0	1	0	189
7月	34	0	0	12	3	77	5	2	80	0	0	0	0	3	216
8月	22	1	0	7	3	49	5	2	46	0	0	0	0	4	139
9月	38	1	0	11	4	33	0	0	37	0	0	0	2	5	131
10月	41	5	0	1	3	70	2	2	39	0	0	0	0	8	171
11月	45	0	0	1	4	75	0	4	44	0	0	0	3	1	177
12月	25	0	0	2	9	92	3	12	42	0	0	0	8	3	196
1月	40	1	0	4	3	111	1	14	49	0	0	0	1	0	224
2月	27	0	0	1	3	89	0	9	74	0	0	0	0	2	205
3月	38	1	0	7	2	202	1	3	145	0	0	0	0	4	403
合計	411	13	0	70	45	940	21	55	734	1	0	0	15	35	2340

4 キャリアピアサポーター

- 令和2年度(前期)資格認定者
 - 上級 2人
 - 初級 9人
- 令和2年度(後期)資格認定者
 - 上級 5人
 - 初級 61人
 - 合計 77人

令和 2 年度 就 職 状 況 に つ い て

【地域別就職状況及び就職率】

令和3年5月1日現在

区 分			卒業・修了者	卒業・修了者の内訳										就職率(%) (就職希望者に占める就職者の割合)				
				進学者	臨床研修医	その他	うち未内定者	就職者	三重県	愛知県	東海地方 (静岡・岐阜)	関東地方	近畿地方	その他	令和2年度		(参 考) 令和元年度 就職率(%)	(参 考) 平成30年度 就職率(%)
															就職率(%)	対前年度増減(%)		
学部	人 文 学 部	文 化 学 科	100 (62)	3 ()	()	10 (6)	7 (5)	87 (56)	21 (14)	24 (16)	6 (6)	26 (17)	8 (2)	2 (1)	92.6 (91.8)	△ 6.2 (△ 6.7)	98.8 (98.5)	97.1 (96.4)
		法 律 経 済 学 科	181 (88)	3 (2)	()	11 (3)	4 (1)	167 (83)	53 (29)	59 (32)	5 (3)	37 (17)	7 (1)	6 (1)	97.7 (98.8)	△ 1.7 (△ 1.2)	99.4 (100.0)	98.3 (98.7)
		計	281 (150)	6 (2)	()	21 (9)	11 (6)	254 (139)	74 (43)	83 (48)	11 (9)	63 (34)	15 (3)	8 (2)	95.8 (95.9)	△ 3.4 (△ 3.4)	99.2 (99.3)	97.8 (97.5)
	教 育 学 部	学校教育教員養成課程	196 (118)	3 (1)	()	7 (2)	3 (1)	186 (115)	115 (71)	35 (23)	3 (1)	22 (14)	9 (5)	2 (1)	98.4 (99.1)	△ 1.6 (△ 0.9)	100.0 (100.0)	98.9 (98.2)
		人間発達科学課程	2 (1)	()	()	1 (1)	1 (1)	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	50.0 ()	- (-)	- (-)	95.2 (93.8)
		計	198 (119)	3 (1)	()	8 (3)	4 (2)	187 (115)	115 (71)	35 (23)	3 (1)	22 (14)	10 (5)	2 (1)	97.9 (98.3)	△ 2.1 (△ 1.7)	100.0 (100.0)	98.5 (97.6)
	医 学 部	医 学 科	127 (33)	()	119 (33)	8 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
		看護学 科	82 (79)	1 (1)	()	2 (2)	()	79 (76)	52 (49)	16 (16)	()	5 (5)	6 (6)	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	209 (112)	1 (1)	119 (33)	10 (2)	()	79 (76)	52 (49)	16 (16)	()	5 (5)	6 (6)	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	工 学 部	機 械 工 学 科	87 (3)	58 ()	()	1 ()	()	28 (3)	5 (1)	10 ()	1 ()	7 (1)	4 (1)	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		電気電子工学科	88 (6)	52 (3)	()	1 ()	()	35 (3)	7 ()	12 (1)	()	12 (2)	3 ()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		分子素材工学科	99 (27)	70 (8)	()	2 ()	1 ()	27 (19)	9 (6)	5 (4)	3 (3)	7 (4)	3 (2)	()	96.4 (100.0)	△ 0.2 ()	96.6 (100.0)	95.0 (100.0)
		建築学 科	48 (12)	16 (4)	()	1 ()	1 ()	31 (8)	2 ()	9 (2)	1 (1)	7 (2)	10 (3)	2 ()	96.9 (100.0)	△ 3.1 ()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		情報工学科	58 (3)	30 ()	()	3 (1)	3 (1)	25 (2)	1 ()	12 (1)	()	9 ()	2 (1)	1 ()	89.3 (66.7)	△ 8.0 (△ 33.3)	97.3 (100.0)	96.2 (100.0)
		物理工学科	42 (5)	18 (2)	()	1 (1)	()	23 (2)	3 ()	10 (1)	3 ()	5 (1)	1 ()	1 ()	100.0 (100.0)	4.0 ()	96.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	422 (56)	244 (17)	()	9 (2)	5 (1)	169 (37)	27 (7)	58 (9)	8 (4)	47 (10)	23 (7)	6 ()	97.1 (97.4)	△ 1.4 (△ 2.6)	98.5 (100.0)	98.4 (100.0)
	生物資源学部	資源循環学科	72 (38)	21 (9)	()	2 ()	()	49 (29)	9 (7)	11 (7)	3 (2)	19 (8)	7 (5)	()	100.0 (100.0)	4.9 (3.1)	95.1 (96.9)	100.0 (100.0)
		共生環境学科	75 (24)	20 (6)	()	3 ()	2 ()	52 (18)	7 (2)	27 (11)	4 ()	10 (2)	4 (3)	()	96.3 (100.0)	△ 1.9 ()	98.2 (100.0)	100.0 (100.0)
		生物圏生命科学科	4 (3)	()	()	()	()	4 (3)	1 (1)	2 (1)	()	1 (1)	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		生物圏生命化学科	78 (52)	26 (11)	()	1 ()	()	51 (41)	9 (7)	20 (18)	4 (3)	12 (9)	5 (3)	1 (1)	100.0 (100.0)	()	- (-)	- (-)
		海洋生物資源学科	39 (12)	24 (8)	()	3 (2)	1 ()	12 (2)	1 (1)	4 ()	1 ()	5 (1)	()	1 ()	92.3 (100.0)	△ 7.7 ()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	計		268 (129)	91 (34)	()	9 (2)	3 ()	168 (93)	27 (18)	64 (37)	12 (5)	47 (21)	16 (11)	2 (1)	98.2 (100.0)	0.4 (1.2)	97.8 (98.8)	100.0 (100.0)
	合 計		1,378 (566)	345 (55)	119 (33)	57 (18)	23 (9)	857 (460)	295 (188)	256 (133)	34 (19)	184 (84)	70 (32)	18 (4)	97.4 (98.1)	△ 1.6 (△ 1.5)	99.0 (99.6)	98.7 (98.5)
大学院	人 文 社 会 学 科 学 研 究	地域文化論専攻	4 (2)	()	()	3 (2)	2 (1)	1 ()	()	()	()	1 ()	()	()	33.3 ()	- (-)	- (-)	100.0 (100.0)
		社会科学専攻	5 (2)	()	()	2 (1)	()	3 (1)	2 (1)	()	()	()	()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	9 (4)	()	()	5 (3)	2 (1)	4 (1)	2 (1)	()	()	1 ()	()	1 ()	66.7 (50.0)	△ 33.3 (△ 50.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	教育学研究科	教育学専攻	20 (5)	()	()	3 (1)	1 ()	17 (4)	12 (2)	()	()	3 (1)	1 (1)	1 ()	94.4 (100.0)	△ 5.6 ()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		教職実践高度化専攻	12 (6)	()	()	1 (1)	()	11 (5)	10 (5)	()	()	()	1 ()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	32 (11)	()	()	4 (2)	1 ()	28 (9)	22 (7)	()	()	3 (1)	2 (1)	1 ()	98.6 (100.0)	△ 3.4 ()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	医学系研究科	医科学専攻(修士課程)	8 (4)	1 ()	()	()	()	7 (4)	4 (2)	1 (1)	()	1 ()	()	1 (1)	100.0 (100.0)	(-)	100.0 (-)	100.0 (100.0)
		看護学専攻(修士課程)	1 (1)	()	()	()	()	1 (1)	1 (1)	()	()	()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		看護学専攻(博士課程前期)	3 (3)	()	()	()	()	3 (3)	3 (3)	()	()	()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		看護学専攻(博士課程後期)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	- (-)	- (-)	- (-)	100.0 (100.0)
		生命医科学専攻(博士課程)	42 (18)	()	()	6 (3)	1 ()	36 (15)	29 (11)	()	()	3 (1)	1 (1)	3 (2)	97.3 (100.0)	0.2 (14.3)	97.1 (85.7)	100.0 (100.0)
	計		54 (26)	1 ()	()	6 (3)	1 ()	47 (23)	37 (17)	1 (1)	()	4 (1)	1 (1)	4 (3)	97.9 (100.0)	0.1 (7.1)	97.8 (92.9)	100.0 (100.0)
	工学研究科	機械工学専攻	54 (2)	2 ()	()	()	()	52 (2)	3 ()	27 (2)	2 ()	14 ()	6 ()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (-)	100.0 (100.0)
		電気電子工学専攻	40 (7)	1 (1)	()	1 (1)	()	38 (5)	1 ()	17 (2)	4 (1)	12 (1)	4 (1)	()	100.0 (100.0)	2.4 ()	97.6 (-)	100.0 (100.0)
		分子素材工学専攻	58 (4)	1 ()	()	1 ()	1 ()	56 (4)	4 ()	24 (3)	1 ()	17 (1)	8 ()	2 ()	98.2 (100.0)	△ 1.8 ()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		建築学 専攻	22 (11)	()	()	1 (1)	()	21 (10)	()	5 (1)	()	14 (7)	2 (2)	()	100.0 (100.0)	7.7 (20.0)	92.3 (80.0)	100.0 (100.0)
		情報工学専攻	17 (1)	()	()	()	()	17 (1)	()	8 (1)	()	5 ()	3 ()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		物理学 専攻	18 (1)	()	()	1 (1)	()	17 ()	4 ()	6 ()	()	7 ()	()	()	100.0 (-)	(-)	100.0 (-)	100.0 (-)
		計(博士前期)	209 (26)	4 (1)	()	4 (3)	1 ()	201 (22)	12 ()	87 (9)	7 (1)	69 (9)	23 (3)	3 ()	99.5 (100.0)	0.5 (5.9)	99.0 (94.1)	100.0 (100.0)
	生物資源学研	材料科学専攻	3 (1)	()	()	2 (1)	()	1 ()	()	()	()	1 ()	()	()	100.0 (-)	()	100.0 (100.0)	100.0 (-)
		システム工学専攻	5 (3)	()	()	1 (1)	()	4 (2)	1 ()	1 (1)	()	2 (1)	()	()	100.0 (100.0)	(-)	100.0 (-)	100.0 (-)
		計(博士後期)	8 (4)	()	()	3 (2)	()	5 (2)	1 ()	1 (1)	()	3 (1)	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (-)
	生 物 資 源 学 科 学 研 究	資源循環学専攻	21 (4)	3 (1)	()	()	()	18 (3)	3 ()	5 (1)	1 ()	5 (2)	4 ()	()	100.0 (100.0)	9.1 (33.3)	90.9 (66.7)	100.0 (100.0)
		共生環境学専攻	23 (6)	2 (1)	()	5 (1)	2 (1)	16 (4)	1 ()	4 (2)	1 ()	4 ()	4 (1)	2 (1)	88.9 (80.0)	△ 11.1 (△ 20.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		生物圏生命科学専攻	31 (8)	3 ()	()	3 (1)	1 ()	25 (7)	3 (1)	5 (1)	1 ()	10 (2)	4 (3)	2 ()	96.2 (100.0)	0.5 ()	95.7 (100.0)	100.0 (100.0)
		計(博士前期)	75 (18)	8 (2)	()	8 (2)	3 (1)	59 (14)	7 (1)	14 (4)	3 ()	19 (4)	12 (4)	4 (1)	95.2 (93.3)	△ 1.2 (1.6)	96.4 (91.7)	100.0 (100.0)
		資源循環学専攻	6 (4)	()	()	3 (2)	()	3 (2)	1 (1)	1 ()	()	1 (1)	()	()	100.0 (100.0)	(-)	100.0 (-)	100.0 (-)
	地 域 イ ノ ベーション 学 科 学 研 究	共生環境学専攻	5 (2)	()	()	1 ()	()	4 (2)	1 ()	1 ()	()	2 (2)	()	()	100.0 (100.0)	14.3 ()	85.7 (100.0)	100.0 (-)
		生物圏生命科学専攻	4 (2)	()	()	3 (2)	()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	100.0 (-)	(-)	100.0 (-)	- (-)
		計(博士後期)	15 (8)	()	()	7 (4)	()	8 (4)	3 (1)	2 ()	()	3 (3)	()	()	100.0 (100.0)	10.0 ()	90.0 (100.0)	100.0 (-)
		地域イノベーション学専攻(博士前期)	12 (2)	3 (1)	()	1 ()	()	8 (1)	3 (1)	2 ()	1 ()	2 ()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	12 (2)	3 (1)	()	1 ()	()	8 (1)	3 (1)	2 ()	()	2 ()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		地域イノベーション学専攻(博士後期)	4 (1)	()	()	1 ()	()	3 (1)	2 (1)	()	()	()	1 ()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	4 (1)	()	()	1 ()	()	3 (1)	2 (1)	()	()	()	1 ()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	合 計		418 (100)	16 (4)	()	39 (19)	8 (2)	363 (77)	89 (29)	107 (15)	11 (1)	104 (19)	39 (9)	13 (4)	97.8 (97.5)	△ 0.6 (2.3)	98.4 (95.2)	100.0 (100.0)

(注)博士課程、博士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を含む。



SA(スチューデント・アシスタント)

SA(スチューデント・アシスタント)の 取り組みをふりかえって

－ SAとして活躍する先輩から学ぶ －

SA(Student Assistant)の取り組みとは、キャリア・ピアサポーター上級資格を取得した学生を活用する学生支援施策である。本学では、仲間が仲間を支援するというこの相互支援の取り組みの本質は、“大学という一つの社会の中で様々な体験をすることは自身のキャリア(生き方)に寄与する”という観点から「キャリア・ピアサポーター」と呼称し、学生個々人のその人らしさを活かした、ピア(仲間)を支援することを推進している。キャリア・ピアサポーターには、初級資格と上級資格が設けられている。学生が支援に関連する様々な知識・技能・態度を高めることのできる講義・演習を一定数受講することで、これらの資格を取得できるという資格教育プログラムが設置されている。

キャリア・ピアサポーター上級資格を取得するまでに、学生は、他者に対する学生支援(ファシリテーション)を実践的に学ぶ講義・演習科目(学習支援実践)や、他者に対する心理的支援を実践的に学ぶ講義・演習科目(こころのサポート)を必修科目として、単位取得しなくてはならない。SAとなる学生の力量を保証するため、他者への配慮や支援方法などについて学ぶことになっている。SAとして、ただの授業準備や配布物の配布補助ではなく、受講生のグループディスカッションへの参加を促すファシリテーションや、受講生の学びをより深めるための支援が望まれている。本学では、教職員ではなく、学生同士、先輩だからこそできる学習支援、学生支援を目指しているのである。

学習支援実践という授業科目は、他者に対する学習支援実践を学びながら、先輩SAの学習支援やサポートを受けるという構造になっている。先輩SAからの学習支援やサポートを受けながらも、その支援の方法や内容等をモデルとして学ぶことができるのである。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、前期での活動は実施できなかったが、後期には学内の先生方のご理解のもとオンラインを活用した授業6科目でSA総数9名を活用した授業が行われた。SAを活用することによる授業の受講生への効果、さらにはSA自身への効果を先生方が感じてくださっていることを願いたい。

●Table1 令和2年度SA採用者及びSA活用授業

期間	授業名	学部	学年	人数
前 期				
後 期	留学生支援実践	人文・教育	3年	2名
	障がい学生への支援	教育	3年	1名
	ピアサポート実践	人文・教育	2・3年	2名
	学生生活支援実践	人文・教育	2・3年	2名
	広報誌編集実践	教育	3年	1名
	企業マインドの醸成	人文	3年	1名
				合計 9名

資格取得を通して社会人としての「実践力」を身につけよう！

大学までの勉強では知識の獲得が最も重視されますが、実際に社会に出てみれば、知識だけでなく、獲得した知識に基づいた実践のための応用力が求められるようになります。しかしながら、こうした能力を身につけるためには、ただ漫然と授業を受けるだけではなく、学生時代に様々な取り組みに主体的に参加することで、経験を通して積み重ねていかなければなりません。三重大学では、「生きる力」の養成や自身のキャリア形成につながる様々な授業科目を用意しています。また、所定の科目を履修した学生に対しては、「キャリア・ピアサポーター初級資格」、および「キャリア・ピアサポーター上級資格」を認定します。「キャリア・ピアサポーター」資格を取得した学生は、授業補助等で教員のサポート役を担う「SA (Student Assistant)」をはじめ、学生が同じ学生を機能的に支援する「なんでも相談活動」や、各種修学(授業)支援、アカデミックフェアやキャリアイベントといった各種イベント企画など、三重大学の活性化にもつながる様々な活動に参加してもらうことで、その力を発揮することができます。さらに、こうして学内の様々な現場を「職場」として体験することを通して、就職活動に不可欠な「対人関係能力」や「コミュニケーション能力」といった能力を身につけていくこともできます。あなたも、「キャリア・ピアサポーター」資格を取得して、一緒に三重大学を盛り上げていきましょう。

認定された方に 資格認定証を授与！

資格認定者の発表は、前期末申請については10月上旬、後期末申請については次年度4月上旬を予定しています。

就職支援チームは
保健管理センターの
近くだよ！



MIE UNIVERSITY
三重大学 学生総合支援センター
【お問い合わせ先】
キャリア支援センター(就職支援チーム)
(総合研究棟 1階 開室時間: 平日 8:30~17:15)
TEL 059-231-5372
E-Mail: syusyoku-in@mie-u.ac.jp
http://www.mie-u.ac.jp/life/peer/license.html



HPはこちら！



これからの人生に役立つスキル、
身につけてみませんか——！！

キャリア・ピアサポーター 資格取得ガイド

キャリア科目の
単位取得で
資格が取れる！

学部・学年をこえる
仲間と出会い、
高め合える！

自ら行動する
力が身につく！



※三重大学の学生生活支援センターがサポートキャラクター
「三重大学猫」

資格事前申請書

氏名：
学籍番号：
電話番号：() -

□ 資格申請のために、私の履修及び単位取得状況について確認されることに同意します。
※同意の場合、チェックボックスをお願いします。
資格取得条件を満たした際に、左記の電話番号または学生メールにご連絡し、資格の認定をさせていただきます。
キャリア支援センター(就職支援チーム)

1 気になる科目を選ぼう！

※開講される科目は変更になる場合があります。履修案内にて確認してください。いずれの年度に習得した単位であっても認定されます。

初級資格必修科目

- ☐ スタートアップPBLセミナー
☐ キャリア教育入門

上級資格必修科目

- ☐ 学習支援実践
☐ こころのサポート

初級 上級 【選択科目(授業テーマ)チェックリスト】

- | 初級 | 上級 | 選択科目(授業テーマ)チェックリスト |
|--------------------------|--------------------------|---------------------|
| ☐ | ☐ | インターンシップ入門 |
| ☐ | ☐ | ピアサポート実践 |
| ☐ | ☐ | 学生生活支援実践 |
| ☐ | ☐ | 広報誌編集実践 |
| ☐ | ☐ | 国際理解実践(留学生支援実践) |
| ☐ | ☐ | 現代社会理解実践(障がい学生への支援) |
| ☐ | ☐ | ビジネスキャリア入門 |
| ☐ | ☐ | 日本理解特殊講義(起業マインドの醸成) |
| ☐ | ☐ | 日本理解特殊講義(地域の仕事を学ぶ) |

初級資格は
必修・選択合わせて
3科目！



上級資格は
必修・選択合わせて
4科目！



注意！
初級・上級資格の認定は、
資格取得申請書の提出が
必須です。

2 キャリア・ピアサポーター 資格教育プログラムを受けよう！

こんなことに
チャレンジできます！

- ★大学生活についての相談活動
- ★学生同士の交流や大学活性化、キャリア支援を目的としたイベント企画実施
- ★修学支援活動の企画実施
- ★学内機関や学生団体とのコラボレーション

Special Step!
SA
(Student Assistant)
こんなことに
チャレンジできます！

★実習形式の各キャリア科目において、教員の授業補助や、受講している学生のサポート業務を担当できる！

グループ活動などやって
進めていけばよいからと、
就職してからでも役立つ力が養える！

Step up!
上級資格取得者

Step up!
初級資格取得者

Start!
全学生

資格を取った先輩の 声

就職活動中、SAとして
授業で学生のサポートを
していた話を面接で
活かしました！
履修書に書く資格なので、
自分の強みにできます！

3 履修スケジュールを確認しよう！





学生総合支援センター主催行事

学生支援サミット2020

1 学生支援サミット2020 概要

趣 旨

年に一度、三重大大学の学生・教員・職員がともに大学をより良いものとして行くために協働して議論を行う機会として開催している。本年度は、テーマを『三重大大学におけるオンライン授業の現状と課題』に設定し、オンライン授業の現状と課題、さらにオンライン授業を含めた今後の大学教育のあり方について検討するためにサミットを開催した。

目 的

- ①新型コロナウイルス感染症対策として行われているオンライン授業について、その現状と課題を学生と教職員が主体的に検討する機会とする。
- ②大学での学習や生活をより生き生きとした望ましいものにできるよう、学生と教職員が協働する意識を育む。

テーマ・内容

『三重大大学におけるオンライン授業の現状と課題』を今年度のテーマとした。まず、学生支援サミットの企画趣旨の説明やオンライン授業に関する概説、学内におけるオンライン授業に関連した調査結果の共有を行った。その後、グループワークの課題として(1)オンライン授業のメリット・良かった点、(2)オンライン授業のデメリット・良くなかった点(改善点)、(3)オンライン授業に対するその他の感想や、オンライン中心だった前期を過ごした感想、(4)メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言、の4点を提示し、学部別のグループごとに上記4点についてディスカッションを行った。グループごとに検討した意見や提言は資料にまとめ、グループごとの発表によって参加者全体での吟味を行った。

主 催

三重大大学 学生総合支援センター

日 時

令和2年9月30日(水)13:00 ～ 16:00 Zoomにて開催

参加申込者

学生については、各学部への参加依頼や講義での周知等を通して募集した結果、合計52名から参加の申込があった。教員については、各学部への参加依頼や学内の会議・委員会での周知、ホームページ等での企画周知を行った結果、計14名から申込があった。職員については、学生支援チームより依頼を行い、計10名がエントリーした。

当日のプログラム

13:00～13:10(10分)	開会の挨拶 三重大学学長 駒田美弘
13:10～13:20(10分)	学生支援サミットの活動内容の説明
13:20～14:30(70分)	自己紹介・グループワーク ※グループワークの内容： 学部ごとのグループに分かれ、 (1)オンライン授業のメリット・良かった点、 (2)オンライン授業のデメリット・良くなかった点(改善点)、 (3)オンライン授業に対するその他の感想や、オンライン中心だった前期を過ごした感想、 (4)メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言、の4点についてディスカッションを行い、共有された意見や提言をプレゼン資料にまとめる。
14:30～15:45(75分)	各グループのプレゼンテーション・質疑応答 ※各グループのプレゼンテーション： グループワークで作成したプレゼン資料を画面共有しながら3、4分を目処に発表を行う。
15:45～15:55(10分)	総括コメント 教育担当理事 山本俊彦
15:55～16:00(5分)	閉会の挨拶 学生総合支援センター長 野崎哲哉

2 当日の参加状況

学生・教員・職員の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生52名、教員31名、職員18名の、計101名であった(表1)。参加学生の学部内訳は表2にまとめた。

当日のグループ構成

当日は参加者の所属学部や部署等を考慮し、以下の全14グループを編成した。

- グループ 1:人文学部グループ①(学生4名)
- グループ 2:人文学部グループ②(学生4名)
- グループ 3:人文学部グループ③(学生2名、教職員4名)
- グループ 4:教育学部グループ①(学生5名)
- グループ 5:教育学部グループ②(学生5名)
- グループ 6:教育学部グループ③(学生2名、教職員4名)
- グループ 7:医学部グループ①(学生4名)
- グループ 8:医学部グループ②(学生6名)
- グループ 9:医学部グループ③(学生2名、教職員4名)
- グループ10:工学部・工学研究科グループ①(学生4名)
- グループ11:工学部・工学研究科グループ②(学生4名)
- グループ12:工学部・工学研究科グループ③(学生4名、教職員4名)
- グループ13:生物資源学部グループ①(学生5名)
- グループ14:生物資源学部グループ②(学生2名、教職員4名)

表1 学生支援サミット2020参加者数

属性	参加者数
学生	52名
教員	31名
職員	18名
合計	101名

表2 参加学生の内訳

学部・研究科	参加者数
人文学部	10名
教育学部	12名
医学部	12名
工学部・工学研究科	11名
生物資源学部	7名
合計	52名

3 グループ発表

各グループの発表内容

グループ1:人文学部グループ①

オンライン授業のメリットとして時間の使い方が自由になったこと、デメリットとして授業準備や心身の疲労といった学生側の負担を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、友だちと会えないことやモチベーションの保ちにくさ、負担の大きさ等があった。その上で、対面を基本としたオンラインと対面授業の併用、教員とのやりとりを増やす等の今後への提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

- ・登校時間がかからない→登校時間に充てていた部分を他のことに使えたり、時間にゆとりを持てる
- ・オンデマンドだと好きな時間に見れて、見返すことができる

時間の使い方がより自由に

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

- ・オンラインならではのタイムラグなどによりグループワークが大変
- ・長時間画面を見ることで身体的な疲労が溜まる
- ・自分で印刷したりコンビニに行く必要があったりするため、レジュメの準備が大変
- ・自宅での授業環境を整える必要がある
- ・オンデマンドの授業を溜めがち
- ・授業前後で他の学生と話すことがないため、友達作りの場がなくなる

授業外での準備(環境整備など)が大変
身体的な疲労や交友関係に関する精神的な疲労も

オンライン授業に対するその他の感想・ オンライン中心だった前期を過ごした感想

- ・友だちに会えないことによる寂しさ
- ・自分の部屋で授業を受けることで、モチベーションが保ちにくい
- ・リアルタイムのオンライン授業の負担が重い
- ・対面授業よりオンライン授業のほうが課題が多く、大変
- ・実験や実習が人文学部には基本ないので、理系学部と比べてオンラインのデメリットは少なかったのでは？

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での (対面とオンラインの両方を含めた) 今後の 授業・大学教育のあり方への提言

- ・対面授業を基本にして、補講などをオンライン授業やオンデマンド形式にする
- ・ネット形式をサブで使うのは??
- ・レポートに対するフィードバックが欲しい
- ・もっと先生とのコミュニケーションを取りたい
- ・今後、オンラインでのグループワークやディスカッションが増えると思うので、GWを扱う授業が増えるといいと思う

グループ2:人文学部グループ②

オンライン授業のメリットとして自分のペースで履修できることや気軽に質問できること、デメリットとして学生側の経済的または心身の負担が大きいことや集中・モチベーションの保ちにくさ等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、友だちと会えないことや課題の負担が大きかったこと、就活やゼミ選びの難しさ等を報告した。その上で、対面授業とオンライン授業の目を分けることや授業にあたっての費用面での支援、図書館を使わせてほしい等の今後への提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

- 【学生にとって】
- ※ 巻き戻して講義内容が聞けた（オンデマンド）
- ※ 時間、交通費節約
- ※ チャット機能で気軽に質問できる（Zoom）
- ※ グループ分けが迅速（Zoom）
- ※ 周りの目を気にせず授業を受けれる
- ※ 自分のペースで勉強できる（オンデマンド）
- ※ 手堅しやすい（プリントがもらえた時）
- ※ Zoomでの授業内容を録画してのちに見れる

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

- 【学生にとって】
- ※ 用紙代、インク代、インターネット設備などの費用がかかる
- ※ （生徒側と先生側ともに）通信障害（Zoom）
- ※ 集中力の低下
- ※ 睡、目などの疲労
- ※ モチベーションの維持
- ※ グループワークでの会話（重なる、しゃべりにくい）
- ※ ペース配分（オンデマンド）

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

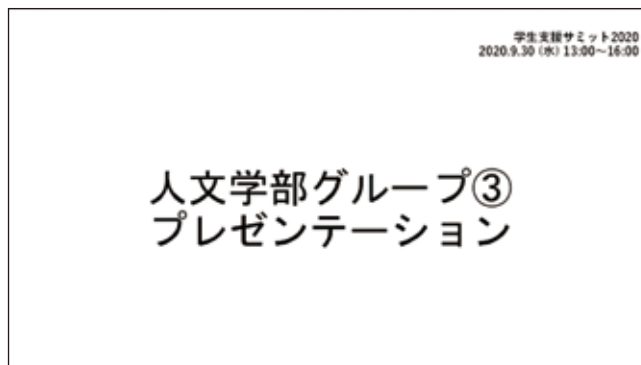
- 【学生側の感想】
- ※ 離れた良好関係になる
- ※ 友達がいる環境の方が集中力、モチベーションが保てる
- ※ 図書館を開けてほしい（勉強スペース）
- ※ 課題が多くてしんどかった
- ※ 就活の状況がつかみにくい（友達など）
- ※ ゼミ選びが難しかった（雰囲気など）

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ※ 今後、対面（ゼミなどコミュニケーションをとる授業では）を少しずつ取り入れてほしい。
- ※ Zoom+録画公開の授業形態
- ※ 対面授業がある日とオンラインの日を分けてほしい。
- ※ 面談共有を上手く活用してわかりやすく（ホワイトボード、ペン機能）
- ※ もう少し授業を受けるにあたっての支援をしてほしい（用紙代、インターネット設備の費用など）
- ※ 図書館の利用

グループ3:人文学部グループ③

オンライン授業のメリットとして時間を自由に使えること(学生側)や授業を提供できること(教職員側)、デメリットとしてパソコンを媒体とすることによる授業への影響(学生側)や学生の反応を見られないこと(教職員側)等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、学生も教職員も新鮮な機会となった一方、学生らしくない生活だったことやキャンパスが寂しかった等の戸惑いも報告された。その上で、状況を鑑みてのオンラインと対面授業の併用や学内施設の利用等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・ 自分の好きな時間に見られる。好きな部分が見られる。スピード調節可能。
- ・ 通学時間の削減
- ・ チャット機能などを使って質問がしやすかった

【教職員にとって】

- ・ (オンデマンドの場合) 時間を気にしなくて良いで、話す内容の濃淡をつけやすい。
- ・ 大学を閉鎖することなく、授業が行える

オンライン授業のデメリット・良くなかった点(改善点)

【学生にとって】

- ・ 自宅で集中しにくい
- ・ 画面を見続けなければならないので疲れやすい、視力低下の可能性も
- ・ インターネット接続の不安定さで授業の質に差
- ・ 図書館が使えない
- ・ パソコン操作機能の不安
- ・ 友人に会えず、コミュニティが狭まる
- ・ オンライン上での会話がしにくい(顔対面だと一層)

【教職員にとって】

- ・ 授業準備に時間がかかる(30~40%増)
- ・ 資料が使えない、著作物などの資料を学生に見せづらい(ダウンロードの場合など)
- ・ 学生の顔、反応が見られない ビデオオンにしても反応を全て見られない
- ・ 公平な試験がしづらい 試験提出ルールに制限を設けた。学生が不正行為を行える環境であった
- ・ 授業開始前に、先生同士で相談などをしながら機能の練習などを行った

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・ 新鮮な教育機会
- ・ キャンパスに行けないので学生らしくない生活だった

【教職員側の感想】

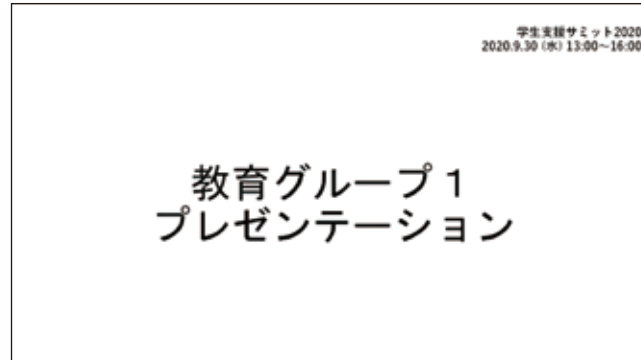
- ・ ITツールなど慣れるのが大変だった
- ・ 経験の一つとして面白かった
- ・ キャンパスが寂しかった
- ・ 手続きが電子化 今後につながる
- ・ 図書館がフル活用できない 十分なサポートができない

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・ 各々の内容にあった授業スタイル(対面・オンライン)を
- ・ 感染対策を徹底した上で対面も可能な時期なのでは
- ・ 感染症が終結するまで(線引きが難しい)は、オンラインのみで
- ・ 施設は存分に使用してほしいが、クラスターなど危惧

グループ4:教育学部グループ①

オンライン授業のメリットとしてオンデマンド授業では見返しができることや登校時間が削減されること、ICTスキルが上がること等を、デメリットとして急な予定変更への対応やメール管理の難しさ、学生間のやりとりが難しいこと、下宿代や交通費に困る等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、満足派と不満派の両者がいたことが報告された。その上で、課題を出しすぎないでほしいことや、学生がオンラインか対面を選べるような設備環境を整えること等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・一般教養の英語の発音→マイクミュートだとしやすい
- ・録画を上げてくれる→見返しができる
- ・登校しなくてよい→時間短縮されて、課題の時間が増える。
- ・スライドのみで声だけの講義
→それがいいという人も一定数いる？（楽に単位を取れる）
- ・課題提出などがほとんどオンライン
→ICT関連のスキルが上がる
→印刷しなくてよい。紙・インクの節約に
- ・YouTubeなどで視聴する場合も一速度などを変えて、自分に合わせられる
- ・アカデミックハラスメントのような先生→物理的な距離がある

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- ・3年生の教育実習
→急な予定変更・メールで通達（仕方のないことではあるが困る）
- ・友達ができない→友達に分からないことなど聞けない
- ・人によって変わる通信環境
→Zoom落ちたりする。意見が聞きにくい
- ・グループワークがある授業→喋らない人はとことん喋らない
- ・たくさんの連絡がメールで来る→管理がとても難しい
- ・下宿費→光熱費がとても高くなった
- ・通いの生徒→定期を買った方がいいのか、買わない方がいいのか

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・総合的に見てオンラインの前期に満足派
→通学時間の短縮・自分のしたいこと（家で）ができる
→勉強時間（院試勉強）がとても増えた
- ・総合的に見てオンラインの後期に不満派
→授業後の空き時間などは、先輩や同期と交流しなかった
→土日が潰れる勢いの課題（まとまった時間が取れなかった）

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

【提言】

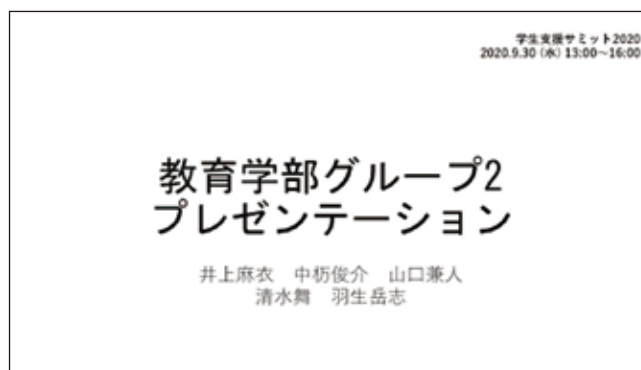
- ・オンラインだからと言って課題を出しすぎないでほしい
→（先生が分かっているのか不安なのは分かるが・・・）
- ・対面とオンラインの両立について
→後ろにカメラなどを置いて、対面で受けるかオンラインかそれぞれが選択できたらより良くなるのでは？

【感想】

- ・オンラインになれていない先生もいらっちゃった
→授業が止まることも・・・お疲れさまでした！
- ・テストがなくなる→全てレポート評価でいいのか？

グループ5:教育学部グループ②

オンライン授業のメリットとして通学時間や費用がかからないことや資料が見やすくなったこと等を、デメリットとして実技・実習系の授業への影響やパソコンやネット使用に関わる難しさ等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、友だちと会えなかったことや実習がなくなったことによる将来への不安が報告された。そして、調査結果の学生へのフィードバックの増加や、対面とオンラインの柔軟な併用と教員とのやりとりを増やしてほしい等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・家が遠い人は**通学時間**を気にせず、**通学費**もかからない
- ・自分の時間が増えたので**実習の準備**がしっかりできた。
- ・授業の資料が板書からデータになり**見やすくなった**。
- ・忘れ物をする心配がなくなった。
- ・睡眠時間が長くなった。
- ・チャットで活発な意見交流ができる。(手を上げるより効率が良い)
- ・オンデマンドだと自分の好きな時間で見れて、復習もしやすい
- ・介護等の連絡はスムーズだった。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

【学生にとって】

- ・画面の見過ぎで**目が疲れる**。
- ・回線が途切れることで授業で**大事なところ**を聞き逃したりする。
- ・**タイムラグ**によって同時に歌うこと(合唱)ができない(音楽科)
- ・**実習系**の授業が短縮してしまった。
- ・前期できなかった分の授業の影響で**後期への負担**が増えた。
- ・ゼミでの話し合いで**回線混雑**などでスムーズにいかないことがある
- ・授業資料の印刷が自分でしなければならない。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

- ・課外活動、実地活動の中止
- ・画面オフにしていると相手の表情が見えず、妙な緊張感。
- ・授業でもツールを統一してほしい。
- ・介護等の代替措置の説明がきていない

教育実習のデメリット・良くなかった点 (改善点)

- ・介護等の代替措置の説明がきていない
- ・教育実習の事前実習は模擬授業だったので、イメージが湧きづかった。
- ・教育実習の事前実習に**差があること**。
- ・教育実習準備で、**学校の様子**が分からない。
- ・オリエンがオンライン—いつもと違うツールで**混乱**が生まれた。

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・家から出ないので楽だが、友達と会えないので**精神的にしんどい**
- ・勉強の面で言えばカバーされているが、その他の面(人間関係等)ではカバーが十分でない。
- ・下宿ではなく実家に帰ることで授業を受けながら介護などの**手伝い**が出来たのが良かった。
- ・授業をたくさん入れても自分の時間に余裕が出来たのはよかったが、**大学生ならではの楽しさ**がなかった。
- ・授業が画面を見続けるので**疲れてしまう**。
- ・実習がない—将来の選択の不安

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・アンケートで1年生以外の回答数が急に少ない—**フィードバックの充実**が必要では
- ・1年生が不安が一番感じているのにこのサミットに**上級生が多い**のはどうなのか
- ・チャット機能をもっと活用していくべき。
- ・オンラインと対面が**どちらもある日の対応**—喋れないのはきついので喋れるような工夫を。
- ・先生とのやり取りがあまりなかったのもっとあるといいと思う。(人数の工夫も)

グループ6:教育学部グループ③

オンライン授業のメリットとして通学時間の削減や発表・質問のしやすさ(学生)、情報提示や共有のしやすさ(教職員)を、デメリットとして友だち同士や学生と教職員とのやりとりが難しいこと等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、実感が少ない生活だったこと(学生)や学生と関われないことが残念だったこと(教職員)等が報告された。その上で、今後に向けた提言として、対面授業やインフォーマルな場での学生と教職員が会う機会の増加、オンライン授業をうまく取り入れること等がなされた。

教育学部グループ3 プレゼンテーション

学生支援サミット2020
2020.9.30 (木) 13:00~16:00

オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・通学の時間(1時間ちょっと)が減ったので、家族と過ごす時間が増えた。
- ・満員電車で乗る必要がなくなったので、助かった。
- ・発表はオンラインの方がやりやすい。
- ・質問がしやすかった。ホワイトボード機能などで、具体的に質問の箇所を指して質問できた。
- ・Zoomの機能でもグループワークができて、楽しかった(対面の場合は5・6人だと距離が遠くなるが、オンラインではそうしたことはない)。
- ・先生がより丁寧に情報発信やケアをしてくれるようになった(オンラインの形態が初めてなので、教員がより情報提供に注意するようになった)。

【教職員にとって】

- ・情報提示や資料配布が楽にできた。紙ベースだと配布する量などの調整が難しいが、電子的に提示できる場合はそれを考えなくてよい。
- ・オンデマンド教材だと聞き返しがないので、理解度はあがったのではないかと。
- ・Microsoft Teamsの場合、グループ間で情報交換したりなどの高度なグループワークができた。ファイルの共同編集ができた(オフラインではできない)。
- ・画面の提示・共有・ホワイトボード機能を利用すると、対面とほとんど同じサービスが提供できた。
- ・Moodleが身近になった。学生さんへの連絡がスムーズにできた。
- ・作品などを事前に課題を提出するので、じっくり見ることができて、きちんと評価できた(対面の場合だと授業時間内だけで見ることになる)。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点(改善点)

【学生にとって】

- ・授業前後で友達と話をする機会がなかった(それが大事だと知った)。
- ・グループワークを開始するきっかけが見つからなかったのも、タイムロスがあった。
- ・対面のときは友達に相談しやすかった。オンラインの期間は友達との連絡が気軽にとれなかった。
- ・先生によって授業の形態(出席などについての決まり事)が異なるので、特に、慣れるまで大変だった。

【教職員にとって】

- ・学生さんのネットワーク環境が悪い場合の対応が大変だった。
- ・学生との(授業以外のことについての)会話をする機会がとれなかった。
- ・学年の雰囲気づくりが難しかった。先輩・後輩のコネクションを作ったりするのが難しい。
- ・顔を出さない場合の学生さんの状態がよく分からない。
- ・学生さんの反応が見えない。
- ・オンラインに伴い初めての試みが多かったので、軌道に乗るまでが大変だった(学生への連絡など)。
- ・実技系については、直接伝えることができない点がデメリット。

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・学年があがった実感が少ない。ただ、前期の授業が終わっただけ。
- ・授業での課題が多かった。
- ・教育実習について、急に中止になったので、急な代替案での実施で混乱が生じた。
- ・教育実習について、9月いっぱい実習を行うつもりだったので、規模が小さくなったので残念。

【教職員側の感想】

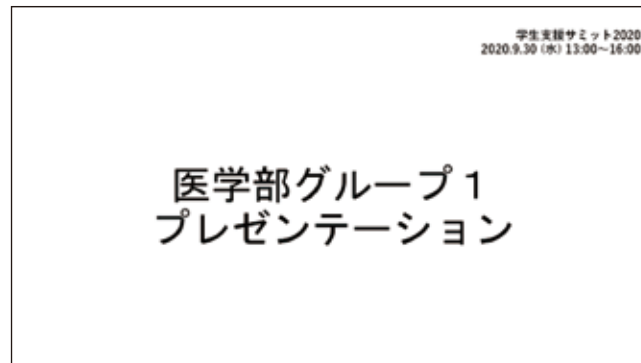
- ・急にオンラインになったので、準備・対応が大変だった。
- ・非常勤の先生方への対応が大変だった。
- ・最初は大変だったが、慣れれば大丈夫だった。
- ・事務において、例年通りにはいかないので、すべての作業を今年度は新しく考えていく必要があった。
- ・学生さんと関わる機会がなかったのは残念。
- ・オンライン授業は自宅からできることがよかった。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・対面授業を増やしてほしい(学生さん)
- ・オンライン授業を実施するという連絡を早くしてほしい(下宿するかしないかなどに影響した)
- ・学生さん・教員がインフォーマルに会う機会がなかったので、増やした方がよい。
- ・対面とオンラインをうまくスケジュールして組み合わせられるとよい。
- ・今年の経験を活かして、新しい形態としてオンライン授業を取り入れていくべき。

グループ7:医学部グループ①

オンライン授業のメリットとしてMoodleのバージョンが統一されたことやコストが下がったこと、質問のしやすさや周りを気にしないで済むこと等を、デメリットとして実技の難しさや接続状況の不安定さ、出席確認のテストを実施することへの疑問等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、試験体制の変更とそれに伴う達成度への不安、楽に取り組めた等が報告された。その上で、教員側のトラブルに対するバックアップ体制の整備や休憩時間の確保、学年に応じて試験・評価制度を調整すること等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

- 【学生にとって】
- ・ Moodleのバージョンが統一（特に下級生？）
 - ・ 配布プリントがなくなった（エコ、課題の猶予）
 - ・ 通学コストが下がった（時間の有効活用、身支度、実家でも受けられる）
 - ・ チャットは質問しやすい、その場で回答がある（プライベート機能）
 - ・ 座席の優劣がない、画面が見やすい
 - ・ 教材を参照しながら
 - ・ 他人の私語が気にならない
 - ・ 外部教員のコスト削減
 - ・ 全体への周知が簡便に（特に学年を超えて） 録画も可能

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

- 【学生にとって】
- ・ 顔が見えない？教員のデメリットかも
 - ・ ミュート忘れ（改善してる）
 - ・ 接続状況が不安定（学生も教員も）
 - ・ スライドが止まる一対策：スタッフが確認、学生が伝える
 - ・ 実技はオンラインでは限界がある
 - ・ 外出したい 健康面
 - ・ 緊張感がない だらけやすい モチベーション
 - ・ 出席・受講態度の確認が難しい
 - ・ 勉強進捗がわからない
 - ・ 2年生は対面予定がない
 - ・ 画面を見ている時間が長い
 - ・ 出席確認のテストの意味があまりないのでは

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

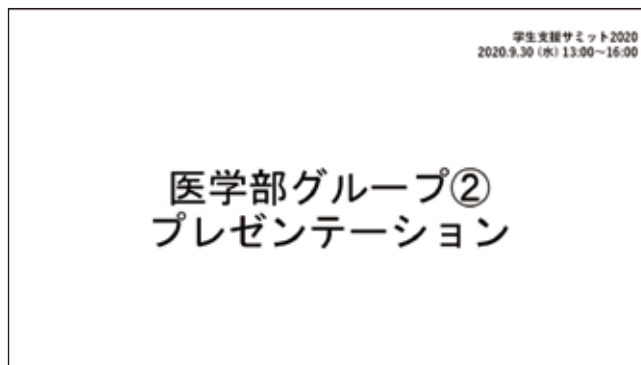
- 【学生側の感想】
- ・ 試験体制の変更が多い
 - ・ 変更後の試験の達成度 このまま進級して大丈夫？（特に下級生）
 - ・ 楽になった（身支度、生活リズム、学習環境）→時間を有意義に使えるかどうかの差が広がった
 - ・ モチベーションが下がらない人（特に上級生）にとっては便利
 - ・ 医学科と他学部のちがいは？（居住地、学習環境、コマ数、設備、友達ととる講義が違う、私語）

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- 講義について
 - ・ 教員側のトラブルをスタッフがバックアップする（改善しつつあるので不要？）…ミスの防止、早急な対応
 - ・ 教員内でフィードバックを共有しておく
 - ・ 1コマを短く または休憩を頻繁に
- 試験について
 - ・ 4年生 現状通りがいい 理解が深まる
 - ・ 2年生 定期的な高頻度の小テスト（調べながら可）、moodleアンケートの活用、時間制限、評価方法

グループ8:医学部グループ②

オンライン授業のメリットとしてMoodleのバージョンが統一されたことやコストが下がったこと、質問のしやすさや周りを気にしないで済むこと等を、デメリットとして実技の難しさや接続状況の不安定さ、出席確認のテストを実施することへの疑問等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、試験体制の変更とそれに伴う達成度への不安、楽に取り組めた等が報告された。その上で、教員側のトラブルに対するバックアップ体制の整備や休憩時間の確保、学年に応じて試験・評価制度を調整すること等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・自分に合った環境で受講することができるので対面授業よりも集中できる。
- ・授業を聴きながら辞書を引いたりネット検索することができるので学習効率上がる。
- ・手を上げる必要がないため対面よりも活発に抵抗なく質問ができる
- ・時間のコスト削減になる。外の環境に左右されない。
- ・外出機会が減ってゆったり生活することができた。空き時間を有効活用することができた。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

【学生にとって】

- ・インターネット環境や家庭の環境、パソコンの知識の程度によっては授業が満足に受けられない。
- ・余分なコスト(印刷費用)がかかる。
- ・友人と関わる機会がなく、人間関係の希薄化。
- ・友人との会話の機会の減少により、自分たちが十分に授業内容を理解しているのか、自分の進捗が確認しづらい。会話を通じた成長の機会が減る。
- ・講義中の態度が悪くなってしまう、講義に対するモチベーションの持続が難しい。
- ・資料の配信が遅いなど、教員の対応(教員自身も手探り)。
- ・長時間のVDT作業による疲労感

友人との会話の中で培われる看護観が...

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

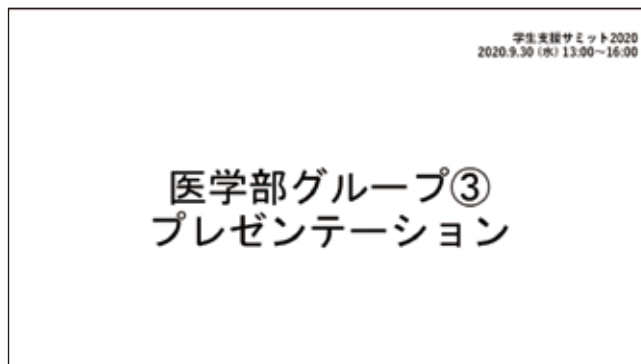
- ・人間関係に関する不安が大きい。
- ・プライベートな環境で、授業自体は集中しやすくなったが、十分な環境が整えられなかったり、対面での成長が不十分になった。
- ・下宿の必要がなくなったため、家族がいる家で生活できていたのは良かったが空家賃になるのが辛かった。
- ・グループワークなどでは雑談が多く雰囲気が緩んでいた。レジュメを読んでいるのみの講義だと面白くなく、授業に対する関心の持続が難しかった。ただ対面授業に比べて楽ではあった。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・先述した様々な理由により授業を満足に受けられない環境下では、授業用資料の提供を前もって済ますなどスムーズな授業運営を求める。
- ・オンライン授業と並行して希望者は対面授業にするなどハイブリットな授業を希望する。
- ・下級生にとってわかりやすい、先輩との交流の場が欲しい。

グループ9:医学部グループ③

オンライン授業のメリットとして時間の使い方が効率化したことや自分で環境調整がしやすくなったこと(学生)、移動によるリスクの減少や各種関連ツールを適用できるようになったこと(教職員)等を、デメリットとして学生間のやりとりの難しさ(学生)やふれあいの機会の減少(教職員)等を中心に挙げていた。前期を過ごした感想として、学生の理解度の差が激しくなったことへの懸念(教職員)や学生間や教員との関わりが減った(学生)等が報告された。その上で、今後の提言として、オンラインの導入によって失った「臨場性」を取り戻すために、状況に応じた対面とオンライン授業を併用していく必要があることを提起した。



オンライン授業のメリット・良かった点

【授業の効率化】

- ・ 授業の効率化
(駅が近くなる、空き時間が有効につかえる。
授業出席のハードルが低くなった、通学時間の短縮。
オンデマンド授業だと自分の空いている時間に受講できる)
- ・ 環境調整
(自分のスペースを自由に使える、気持ちが引き締められる、受講する音や場所等を自分で整えられる)
- ・ 大人数の講義でも、チャットで先生個人に質問ができる

【時間的メリット】

- ・ 移動による様々なリスクの減少
(通勤時間が浮く、時間を有効に使える、授業のリスクが低くなる、研究室から移動をしなくてよい)
- ・ 人の移動を聞くことができる
- ・ 録画の活用(自分の講義の振り返りや欠席者へのフォロー)
- ・ チャットで反応があると嬉しく思う(対面ではない)
- ・ 学生1人1人の反応・表情をチェックできる
- ・ フェースタイムへの適応、バーチャル教室

オンライン授業のデメリット・良くなかった点(改善点)

【学生にとって】

- ・ グループディスカッションがやりづらい。
(意見が通じづらい、2人以上が話すことができない、発言が重なりすぎる)
- ・ 目が疲れやすい、肩がこる(体の不調)
- ・ 集中が途切れやすくなった
- ・ 学生間で通信環境に差があった、生活音が入る学生がいる

【教員にとって】

- ・ 学生とのふれあいが少なくなる
(カメラをオフにしていると反応が見られない、教員としても寂しく感じる)
- ・ フォークを掴んでいたのがしづくなった
- ・ 通信環境を整える、入室管理をすることが必要となる
- ・ 机動性に乏しい(振り向き合いの機会の減少になる、大学の機嫌が悪くなる)
- ・ 身体性の欠如(身振り・手振りで伝わりづらい)
→自分が話しているのが相手に伝わっているのか不安に思うことがある
相手からの動き以外での雰囲気を読み取りづらい

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・ (看護) 以前は演習の発表練習を友達としていたが、その機会が激減した
- ・ 先生との個人的なやり取りする機会も減った。
"ちょっと"の確認ができず、先生とのやり取りのハードルが上がった。
- ・ 日常的な会話をする機会が減った。
たくさんさんの友達と触れ合えなくなった。
- ・ 効率的に時間を過ごせるようになったのが良かったと思う。

【教員側の感想】

- ・ 学生の理解度の差が激しくなったのではないかと感じる。今後もその差が出てくるのではないかと懸念している。

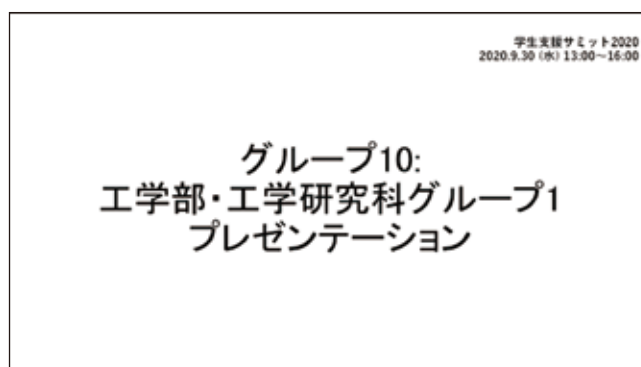
メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

「臨場性」を取り戻すために対面授業の実施を再度検討していく

- オンラインと対面の併用をしていく。
(学生のニーズに合った実施)
- (他の高等教育機関など学外の学生に向けては
オンライン授業を検討するなど)

グループ10:工学部・工学研究科グループ①

オンライン授業のメリットとして自分で問題を解決する能力の向上や授業への参加のしやすさ等を、デメリットとして課題の量が多かったことやコミュニケーションのとりにくさ等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、パソコンスキルは向上したものの、学内施設の利用制限がされてしまい困ったこと、生活費への不安等が報告された。その上で、オンデマンド授業の活用や課題の量や提出期限の教員間での共有、連絡手段や資料配布に関するシステムの整備等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・オンライン授業である分、自分で解決する能力の向上
- ・チャットでの質問がしやすく授業に参加しやすい
- ・通学時間がない分自由な時間が増える
- ・体調不良(風邪、熱)でも授業に参加しやすい
- ・黒板などが見やすい、声が聞き取りやすい

オンライン授業のデメリット・良くなかった点(改善点)

【学生にとって】

- ・課題の量が多い
- ・自分自身でしっかりと課題や連絡事項などを管理する必要があり大変
- ・学生や先生とのコミュニケーションをとりにくい
- ・通信環境に左右されやすい
- ・レジュメ等の印刷も積み重なると出費がかさむ

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

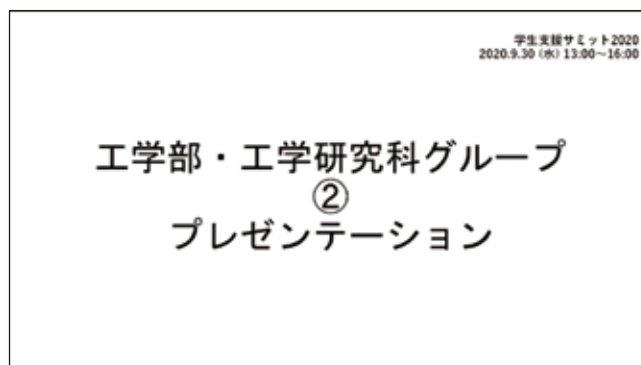
- ・PCをずっと使用していることで疲れたがその分PCスキルは向上した。
- ・あっという間に前期が終わってしまった気がする。
- ・学校の設備が使えないことによって活動が制限されてしまう。
- ・設備が使用できない分の学費免除等がない
- ・お金が必要なのに補助金の対象外になってしまい生活が厳しくなる人も出てきそう。アルバイトも少なくなっている。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・オンデマンド授業をうまく活用していくことで理解が深まる
- ・必修科目だけでも先生の間で量や提出期限を話し合って学生への負担を減して行って欲しい
- ・授業資料をどの授業でも配布して欲しい
- ・授業に関する連絡方法を統一して欲しい
- ・学科の掲示板をオンライン上で閲覧できるようにして欲しい
- ・オンライン授業の準備をしっかりと上で授業をして欲しい(授業資料やソフトの機能の使い方等)

グループ11:工学部・工学研究科グループ②

オンライン授業のメリットとして授業中に質問や調べ物をしやすくなったこと、リラックスして授業を受けることができた等を、デメリットとして施設利用が制限されることや人と話す機会が減ったこと、履修登録が不安だったこと等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、自由に時間が使えるようになった一方、オンラインでは困難な授業があったことや自分一人での取り組みが大変だった等が報告された。その上で、オンラインのできる部分はオンラインで行っていくことや登校が必要な授業の整理、授業のアーカイブ化等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- 他の人に気を遣わずに質問を行うことが出来た。(1年、3年)
- 授業中でも調べ物をする事が出来る。(1年)
- 通学時間を他のことに使うことが出来た。(3年)
- リラックスして授業を受けることが出来た。(3年)
- 実習の授業で自主的に取り組む事に繋がった。(4年)
- 録画された授業だと受けられなかった授業を見返す事が出来た。(4年)
- Moodleに資料を載せてくれる先生が多くなった。(M1)

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

【学生にとって】

- 学費の使用用途が気になるようになった。(1年)
- 施設の使用制限がされている。(4年)
- 授業から落ちた際に戻る手間がかかるようになった。(1年)
- 人と話す機会が減って気が滅入った。(3年)
- 履修登録などに不安が残った。(1年)

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- 自由に使える時間が増えた。
- 授業によってはオンラインで行うことに無理を感じた。
- バイトに申し込むことが難しくなった。
- 自力でしないといけないことが増えて辛かった。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- 登校制限はなくてもオンラインで出来ることはオンラインで行う。
- 登校が必要な授業はまとめられるものはまとめる。
- 授業のアーカイブをもっと残して欲しい。
- Moodle をさらに有効活用する。

グループ12:工学部・工学研究科グループ③

オンライン授業のメリットとして移動時間の短縮や復習のやりやすさ(学生)、場所や時間の制約がないことや資料共有の便利さ(教職員)等を、デメリットとして学生や教員とのやりとりの難しさやカンニング対策の難しさ等を挙げていた。また、前期を過ごした感想として、人間関係の構築や研究の進捗に不安があること(学生)や学生の反応を受け取りづらく、試験でも苦勞したこと(教職員)等が報告された。その上で、人間関係を構築できるシステムの導入や評価方法の対策を考えていくこと等の提言がなされた。

学生支援サミット2020
2020.5.30(木) 13:00~16:00

工学部・工学研究科グループ3

教授2名: 鈴木、河内
職員2名: 濱口、小川
学生2名: 宮前(修士2年)
中嶋(学部4年)

オンライン授業・研究活動のメリット

【学生にとって】
コロナ対策ができる
移動時間の短縮
復習がやりやすい
疑問点をネットで検索しやすい

【教職員にとって】
場所・時間の制約がない
PC画質が担保されている
画面共有が非常に便利
生徒の顔が見やすい

オンライン授業・研究活動のデメリット

【学生にとって】
研究室内の人間関係構築
講義中の生徒間の意見交換
試験時のカンニング防止
教授との研究発表スライドの作成

【教職員にとって】
生徒の反応を受け取りづらい
→平凡な講義になりがち
カンニング対策、評価方法
各々のPCのスペックに依存

オンライン授業・研究活動に対する感想

【学生側の感想】
講義の側面では便利だが、研究室に行けないため
人間関係構築の側面ではあまり好ましくない。
卒業研究の進捗スピードが不安。
留学生が来日できない。

オンライン授業・研究活動に対する感想

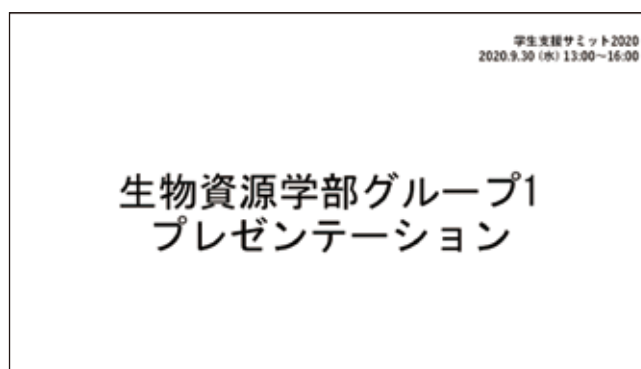
【教職員側の感想】
教室管理や移動を削減できるので便利になったが、
生徒の反応を受け取りづらい。試験での苦勞。
会議では雑談が少なくなりスムーズ化。

今後のあり方への提言

【学生】
オンライン講義は学習には適しているが、人間関係を構築し
づらい。
(例えば、講義中にグループワークを行ったり、
先輩や後かが率先して環境を整えたりする必要がある。)
【教職員】
学生の反応や評価方法の対策を考えなければならない。
会議はオンラインでスムーズになったので、引き続き行いたい。

グループ13:生物資源学部グループ①

オンライン授業のメリットとして移動や費用が軽減されること、不調でも受講が可能であること等を、デメリットとして実験・実習の実施が難しいことや体調・生活管理が乱れやすいこと等を挙げていた。また、前期を過ごした感想として、人間関係上のやりとりが難しかったことや大学に行くことへの疑問等が報告された。その上で、対面での実験・自習の実施や友人・教員と話す機会を設けること等の提言がなされた。



オンライン授業のメリット・良かった点

- ・通学にかかる時間と費用の軽減
- ・疑問点をすぐに他の資料などで調べものが可能
- ・学内の移動が無くなり、楽
- ・授業中の質問はしやすい
- ・多少、体調が悪くても受講可能

オンライン授業のデメリット・良くなかった点（改善点）

- ・疑問点の相談が難しい
- ・実験・実習ができず、器具の使用方法的な理解に不安
- ・モチベーションの低下
- ・体調管理、生活リズムの乱れ
- ・接続トラブル
- ・家族との兼ね合い

オンライン授業に対するその他の感想・オンライン中心だった前期を過ごした感想

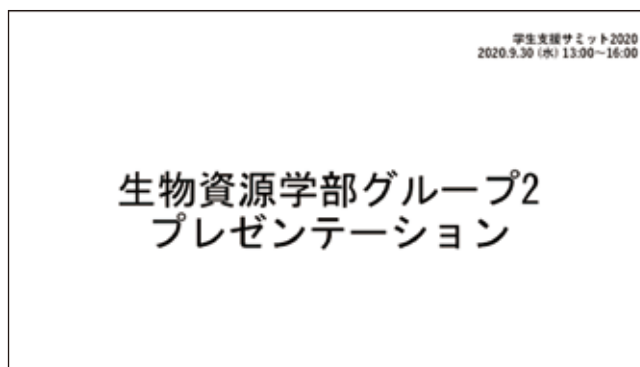
- ・友人に会えない孤独感
- ・コミュニケーションが取りにくい
- ・大学に行く意味はあったのか疑問に思う
- ・授業の理解度に対する不安が常にあった
- ・新しい発見をすることができた

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・対面での実験・実習の実施
- ・口頭で質問できる場を設けてほしい
- ・研究室などの情報が欲しい
- ・教授、友人と話す機会を設けてほしい

グループ14:生物資源学部グループ②

オンライン授業のメリットとして自分のペースで履修できたこと(学生)、資料配布・出欠確認のしやすさや授業用動画が作成できたこと(教職員)等を、デメリットとして双方向のやりとりがとりにくいこと(学生)や体験の場を作りにくいこと等を中心に挙げていた。また、前期を過ごした感想として、自分のペースで履修できた一方で疲れやすかったこと(学生)や学生の状況確認の難しさや短期間での授業準備の困難さ(教職員)等が報告された。今後への提言としては、オンライン上でもコミュニケーションが取れる体制を整備することや授業実施のノウハウの教員間での共有等が提起された。



オンライン授業のメリット・良かった点

【学生にとって】

- ・自分のタイミングで視聴できた。
- ・聞き逃した所を何度でも聞ける。
- ・資料が Moodle 上にあり、復習や学習がしやすかった。
- ・チャットを利用し、質問がしやすかった。

【教職員にとって】

- ・資料の配布がしやすい。
- ・出席が取りやすい
- ・授業アンケートなどの周知がしやすくなり、回収率が上がった。
- ・一情報伝達がしやすくなった。
- ・授業用のビデオ(実験)が作成できた。一何箇所も視聴可

オンライン授業のデメリット・良くなかった点(改善点)

【学生にとって】

- ・緊張感がなく、集中しにくい。
- ・実験の実感がわかない。
- ・レポートが多かった。
- ・議論がしにくい。
- ・双方向のコミュニケーションを取りにくい。

【教職員にとって】

- ・体験の場を作りにくい(学生がビデオだけみてやったつもりになってしまう。)
- ・反応が見にくい、理解度がわかりにくいペースが速くなってしまいがち。
- ・問い合わせを受けた時、オンラインだと説明がしにくい。

オンライン授業に対するその他の感想・ オンライン中心だった前期を過ごした感想

【学生側の感想】

- ・自分のタイミングでいつでも受講可能なので便利。
- ・慣れないことで疲れてしまう。
- ・学生と教員間のコミュニケーションが取りにくい。
- ・授業以外で得られること、人との繋がりが少なかった。

【教職員側の感想】

- ・可能な限りのサポートはしたいけれど、実態把握が困難(事務)
- 学生・教員・事務で実態の共有ができていない。
- ・道具・手法・コンテンツを短期間で用意しないといけないのが難しかった。
- ・講義をやる場所が限られない一休講が減少一側年とペースが異なった。
- ・テストがやりにくかった。

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での(対面とオンラインの両方を含めた)今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・学生と教員とのコミュニケーションをオンライン上でもできるように、体制を整えていく
- 質問や感想を利用した、フィードバック
- オンラインならではのコミュニケーション方法を考える
- ・多様な場所で行えるというメリットは延ばす
- オンラインだからこそ他大学や海外の講義を受ける
- ・教員同士の授業方法やテスト作成、学生の評価方法の情報共有

学生支援サミット2020～三重大学におけるオンライン授業の現状と課題

2020年10月06日

9月30日(水)、zoomを使用しオンライン上にて、「学生支援サミット2020～三重大学におけるオンライン授業の現状と課題」が開催されました。

本サミットは、学生・教員・職員が協働しながらディスカッションを行い、より良い三重大学となるよう考えていく貴重な機会として、学生総合支援センター主催で毎年開催されているイベントです。本年度は「三重大学におけるオンライン授業の現状と課題」をテーマに、学生・教職員合わせて101名が参加し、学生総合支援センター障がい学生支援室 風間惇希講師の進行のもとサミットが行われました。



冒頭、駒田美弘学長から「新型コロナウイルスの影響に伴い、本日はオンラインでの開催となりましたが、活発に議論・討論し、意見を共有していただくとともに、新型コロナウイルスが終息した後のルネサンスの大学を思い浮かべて、この学生支援サミットをより実りの多いものにしていただきたい。」と開会の挨拶がありました。



続いて、風間惇希講師より今回のテーマである「オンライン授業の現状と課題」についての説明がありました。

オンライン授業のデメリット・良くなかった点 (改善点)

- ・オンラインならではのタイムラグなどによりグループワークが大変
- ・長時間画面を見ることで身体的な疲労が溜まる
- ・自分で印刷したりコンビニに行く必要があったりするため、レジュメの準備が大変
- ・自宅での授業環境を整える必要がある
- ・オンデマンドの授業を溜めがち
- ・授業前後で他の学生と話すことがないため、友達作りの場がなくなる

授業外での準備（環境整備など）が大変
身体的な疲労や交友関係に関する精神的な疲労も

メリット・デメリット・感想を踏まえた上での（対面とオンラインの両方を含めた）今後の授業・大学教育のあり方への提言

- ・アンケートで1年生以外の回答数が急に少ない→**フィードバックの充実が必要では**
- ・1年生が不安を一番感じているのにこのサミットに**上級生が多い**のはどうか
- ・**チャット機能をもっと活用していくべき。**
- ・オンラインと対面がどちらも**ある日の対応**一蹴れないのはきついで喋れるような工夫を。
- ・**先生とのやり取り**があまりなかったのももっとあるといいと思う。(人数の工夫も)

学生達は学部ごとに教職員を含めたグループに分かれ、グループワークを行いました。

その後、各グループのプレゼンテーションが行われ、オンライン授業について学生視点や教職員視点のメリットやデメリット、今後の改善点について発表されました。

その後、教育担当理事 山本俊彦から「対面、オンラインのいずれにおいても、高等教育としての学びの質の保証という観点から、本日の意見をしっかりと受け止めて、フィードバックしていきたい。」と総括がありました。

最後に、学生支援センター長 野崎哲哉から「本日の意見をしっかりとまとめ上げた上で、今後大学として対応し、フィードバックもしていきたい。また、今後も学生・教職員が議論しながら、よりよい大学をつくっていくために協力をお願いしたい。」と閉会の挨拶がありました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、今年度の学生支援サミットはオンライン上での開催となりましたが、学生・教職員の積極的なディスカッションが行われ、大変有意義なサミットとなりました。



三重大学学生総合支援センターホームページ

<http://www.mie-u.ac.jp/life/>

国立大学法人 三重大学

問い合わせ先／学生総合支援センター

〒514-8507 津市栗真町屋町1577

TEL:059-231-9679

三重大学life

click